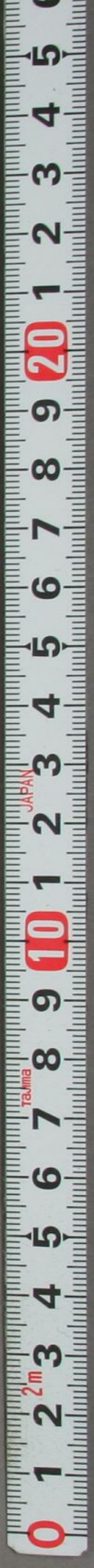


決議
案議
録録

第一冊
從壹至七冊

79
6495



决
議
錄

明治二年己巳五月

第一

内
庫

芝罘三友五余

1869



門 79
號 6495
卷

大藏經

早稲田大學圖書館
昭和31.9.28
藏書

第一號

御下問

自古自諸侯至士所置規則案ハ土ハ國也

第一

諸侯其持高ノ地ヲ分割シ末家公然宗家ノ祿高

割シ別段判ト稱シ歷然諸侯或元旗而等ノ家格

ヲ受ル者如シ没籍之罪アルトキハ其秩祿

朝廷へ召揚之事

第二

右等之者御一新後德川家へ隸スル向モ亦其知

行所之朝廷へ沼揚之事

第三

諸藩之藏米等差遣シ諸侯元旗下等建置候向ハ
分割禄高ノ名アリト雖氏實ハ宗如シ没籍ノ罪
家石高ノ中故國役重複相勤ル者如シ没籍ノ罪
アリト雖氏其秩禄ハ固ヨリ宗家石高ノ中故其
分ニ差置只可為減籍事

第四

但右等之向ト雖氏一家格ヲ立ル上ハ國役ヲ務
スルハアラス因テ其禄高ノ多寡ニ應シ御定額

之通軍資金軍役等為差出候事

第五

尤モ其本末都合ニテ事ナクトモ減籍致シ度向
ハ願之上差許ニ相成候事

右御下問之御規則案可否如何決議之趣可申
上候事

己巳三月七日

議長

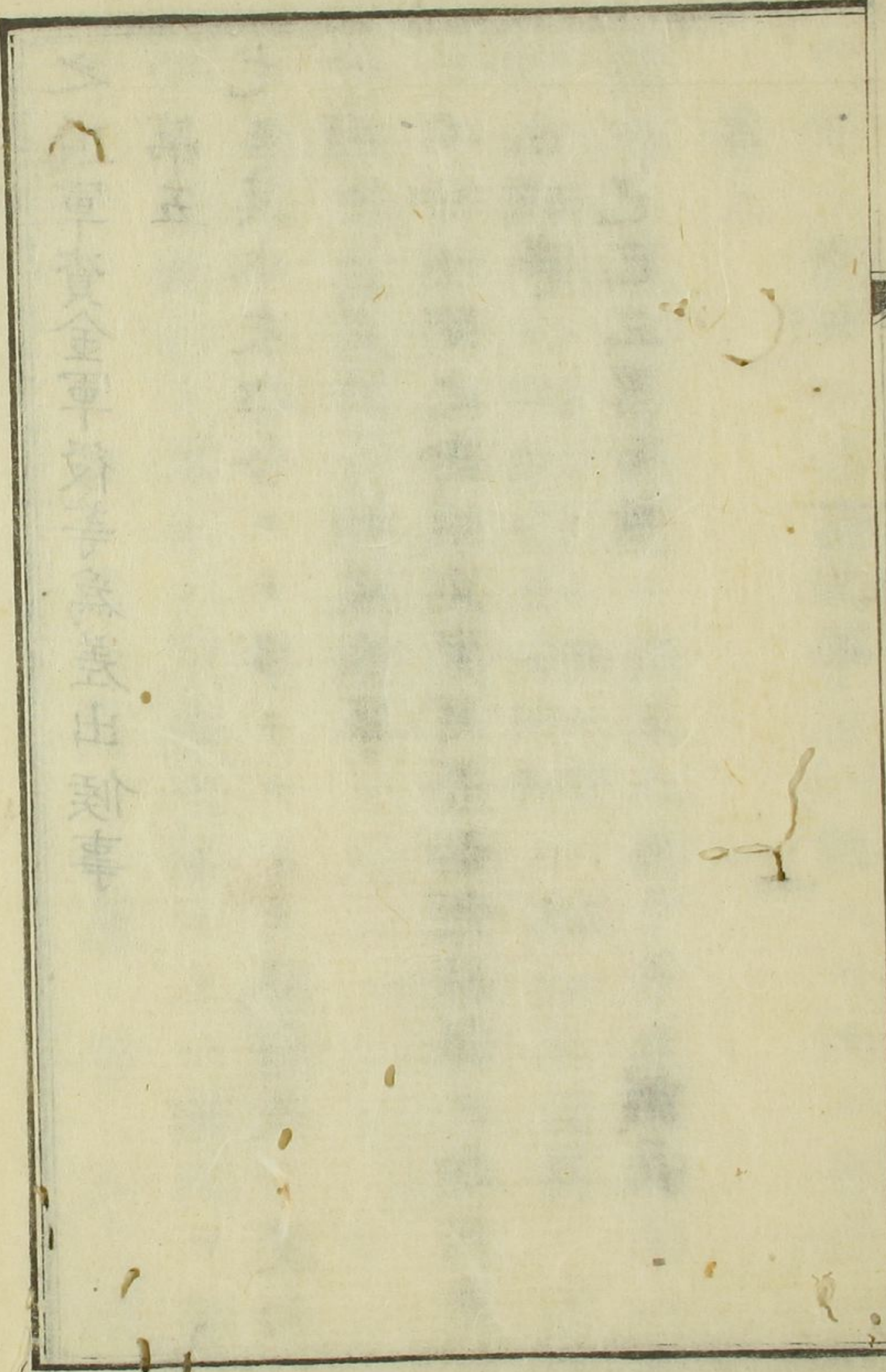
第一號議案改正

自諸侯至上士所置規則案

第一

諸侯其領地ヲ割キ末家ト稱シ諸侯中下大夫上士タル者如シ家名斷絶ノ罪アテトキハ其秩禄公ニ收ムベキ事

但家名斷絶ノ罪ハ本末ノ名稱ヲ以テ相連累セシム可カラサル事



第二

- 一 宗家ノ禄高ヲ減シ別段判物ヲ受サル者
- 一 藏米ヲ與ヘ土地ヲ分タス判物ヲ受サル者
- 一 半ハ土地ヲ分チ半ハ藏米ヲ與ヘ判物ヲ受サル者
- 一 土地ヲ分チ宗家ノ禄高ヲ減セズシテ判物ヲ受サル者
- 一 土地ヲ分チ判物ヲ受ケ宗家ノ禄高ヲ減セザル者

右ハ名實相適セス自今判然分ツニ土地ヲ以テシ判物ヲ受ケシメ新田アル者ハ新田ヲ分チ無キモノハ宗家ノ高ヲ減ズル如シ家名斷絶ノ罪アルトキハ其規則第一案ノ如クナルベキ事

第三

末家ヨリ更ニ末家ヲ建タル者其規則第一第二案ノ如クナルベキ事

第四

新ニ末家ヲ建シトスル者前条ノ規則ニ從
朝裁ヲ請フ可キ事

飯肥議員 稻津 濟

佐倉同 依田右衛門二郎

尾ヶ崎同 服部清三郎 謹案

大垣新田同 有竹衛門

紀州同 伊達五郎

己巳三月廿二日

論定

第一 弼議案再改正

自諸侯至上士本末處置規則案

第一

諸侯其領地ヲ割キ末家ト稱シ諸侯中下大夫上
士タル者如シ家名斷絶ノ罪アルトキハ其秩祿
公ニ收ムベキ事

第二

家名斷絶ノ罪アルトキ本末ノ名称ヲ以テ相連

累セシム可カラザル事

第三

- 一 宗家ノ祿高ヲ減ジ別段判物ヲ受ザル者
- 一 藏米ヲ與ヘ土地ヲ分タス判物ヲ受サル者
- 一 半ハ土地ヲ分テ半ハ藏米ヲ與ヘ判物ヲ受ザル者
- 一 土地ヲ分テ宗家ノ祿高ヲ減ゼズシテ判物ヲ受ザル者
- 一 土地ヲ分テ判物ヲ受ケ宗家ノ祿高ヲ減ゼザ

ル者

右條名實相適セ奉自今判然分ツニ土地ヲ以テ
 判物ヲ受ケシメ新田ナル者ハ新田ヲ分テ無
 キ者ハ宗家ノ高ヲ減ズベシ如シ家名斷絶ノ罪
 アルトキハ其規則第一案ノ如クナルベキ事

一 但シ判物ヲ受ケザル者本末孰和シテ宗家
 ニ合併セント欲スル時ハ其段願出可仰

朝裁事

二 但新ニ判物ヲ賜フ者ハ必ズ本末分知ノ由

緒ヲ判物中ニ詳載シ本末ノ分ヲ知ラシム
ベキ事

第四

末家ヨリ更ニ末家ヲ建タル者其規則第一第二
案ノ如クナルベキ事

第五

新ニ末家ヲ建ントスル者前條ノ規則ニ
朝裁ヲ請フベキ事

御用金ノ可廢ノ詳 小野清五郎

従前國家大費用アレハ豪農富商ノ令ニ其分ニ

應ニ政府ニ獻金セシム之ヲ御用金ト稱ス

廣高ノ生ヲ建ルハ八

既肥 稻津 依田右衛門三郎 依田金ノ令

佐倉 依田右衛門三郎 依田金ノ令

尼ヶ崎 服部清三郎 謹案

大垣新田 有竹衛門 謹案

紀州 伊達五郎

高鍋 坂田 莠
 福知山 中野 齋 謹補
 肥後 鎌田平十郎

第二號

御用金ヲ可廢ノ議

小野清五郎

従前國家大費用アレハ豪農富商ニ令シ其分ニ
 應シ政府ニ獻金セシム之ヲ御用金ト號ス未レ
 農商ノ生ヲ遂ルハ固ヨリ政府ノ保護ニヨリト
 雖モ終歲攷々トシテ貯蓄スル所一旦獻金ノ令
 アレハ庸人ノ情自然割愛ニ忍ビ難キ者アキ是
 レ農商ヲシテ其私有ノ産ヲ保護スル能ハサレ
 ニ至ル其弊ヤ豪奪兼併ト相去ル遠カラズ窃ニ
 聞ク西洋各國ニテ國用不足時ハ一時融通ノ為

ノ政府ヨク手形ヲ出シ金ヲ國人ニ借リ毎年政
府ニテ其利息ヲ拂ヒ時トシテハ元金ヲモ返ス
事アリ尤利息ハ大抵一年ニ三分ヨリ三分半ノ
割合トカ申事ニテ之ヲ國債ト名ヅク西洋各國
大抵國債ノ無キ者ハ稀ナリ此ノ如ク國債ノ法
相立候故國人モ金ヲ政府ニ出ス事ヲ嫌ス政府
ヨリ出ス所ノ手形ハ國中ニテ互ニ相場ヲ立テ
賣買シ紙幣ニ異ルナシ又政府國債ノ高ヲ減ゼ
ントシテ或ハ時ノ相場ヲ以テ其手形ヲ政府工

買戻ス事モアリト傳聞候故ニ戦争等ニテ大費
用アリト雖モ數百萬ノ金ヲ辨ズルハ咄嗟間ナ
リ方今御維新ノ際従前ノ陋習ヲ一洗シ西洋
國債ノ法ヲ御斟酌アリ良法御設ケニ相成斷然
御用金御廢ノ方可然奉存候

第三號

里數御改定ノ議

福智山議負 中野 齋

諸道ノ内朱印地穢多地等舊幕府ヨリ諸役免除
 ノ故ヲ以テ路程町數ノ高ニ入ラサル者往々有
 之且土地古来ヨリノ沿襲ニヨリ五十町一里ト
 稱スルモノアリ是等ノ類里數平等ナラス人馬
 ノ勞ヲ掠ムルコト少カラス依テ以来都テ
 皇國從來ノ里程三十六丁ニ一定仕度奉存候

ヲ尋ヌルニ多クハ皆官名ナリ或ハ又間々異稱
ヲ有スルモアリ其官ニ非スシテ之ヲ稱シ其實
名ヲ用ヒズシテ異稱ヲ設ル等其不經ナル固ヨ
リ論ヲ待タズ又官位五位以上ニ至テハ其國守
國介ニ非ズシテ監リニ某ノ守某ノ介杯ト稱シ
譬ヘバ大和守ト稱スル者モ真ニ大和國ニ守タ
ル者ニ非ザルノ類比々是ナリ其他某ノ四位某
ノ五位杯ト其位ヲ以テ其通稱ニ換ヘ偶同姓同
位ノ者有之時ハ稱呼混淆シテ何人タルヲ辨識

シ難キニ至レリ是皆實名ヲ不用ノ故ナリ且又
實名ハ其字數モ簡約ナレトモ通稱ニ至テハ或
ハ一字或ハ二字或ハ又五六字ヲ用スル者アリ
實ニ煩雜無紀ノ至リト云フヘシ故ニ以來一切
通稱ヲ廢シ亦官位ヲ以通稱ニ換ル等ノ弊モ廢
シ貴賤上下都テ實名ノニ相用候方可然奉存候

改正第四號議案

軍務官判事 森 金之丞

第一

士分以上通稱ヲ廢シ實名ノ三可用事

第二

士分以下ハ今形ニシテ差置キ追テ可議事

第三

官位ヲ以通稱ニ換ルヲ廢止スル事

第四

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

在位在官ノ者ハ其官位ヲ姓名ノ上ニ表シ可用
事

但私用此例ニ不拘事

第五

他人ヨリ称呼スルニハ第四条ノ例ニ不拘何名
タリ其便利ニ從テ之ヲ用ル随意タルヘキ事

漢土及第法御參用可然之建白

會計官權判事

神田孝平

第五號

謹案古今萬國士ヲ取ルノ法品々有之趣ニハ候
得共最公正ナルハ漢土ヲ第一ト致シ候趣西洋
人ノ常々稱揚仕候所ニ有之候我邦從來士ヲ取
ルノ法備ハラス就テハ此度御新政ノ折柄漢土
ノ法ニ倣ハセラレ進士及第ノ法ヲ御用ニ相成
候ハ會議ノ法ト並ヒ行ハレテ東西ノ兩羨ヲ
御合併ノ形ト相成可申候

但シ會議ノ趣意ハ人心一和ヲ致スニ在リ及
第ノ趣意ハ人材ヲ舉クニ在リ並行ハレテ
相悖ラス此意御會被成下度奉願候
尤漢土及第ノ法ニハ頗ル流弊モ有之由右ハ全
ク科目ノ立方不得宜ト試官ノ公正ナラザレト
ニ出ル事ト相見候工ハ今畧改正ヲ加工試ニ其
有増々奉申上候
毎年一度ツ、時日ヲ定メ海内ノ有志ノ士ヲ募
リ其才學ヲ試ミ優等ニ登ル者ヲ舉ケ四等以下

ノ官ニ任シ之ヲ實際ニ試ム
科目ハ實地適用ヲ主トシ和學漢學經濟文章天
文地理兵學律學醫學博物學ノ類タルハシ
但シ詳ナル事ハ會議ニテ取極可然歟
試官ハ議事所ニテ臨時ニ之ヲ撰擧スヘシ
試業ノ法ハ當日試官ヨリ策問ヲ發シ其場限ニ
對策ヲ作ラセ名ヲ隱シ置試官各甲乙ヲ記シ甲
字最多キ者ヲ上等トスヘシ
右ノ通三回ノ試業ヲ為シ三回共ニ上等ニ登ル

者ヲ甲第トスヘシ
試業ノ後對策ニ試官ノ甲乙ヲ記シタル儘作者
ノ姓名國所ヲ記シ登第落第并ニ其任セラレシ
官階ヲ録シ合シテ一卷トナシ上梓シテ天下ニ
公示スヘシ
以上試業法ノ大畧ニ御座候猶詳ナリ可ハ時ニ
臨ニ酌定可仕義ト奉存候
右ノ如ク御法相立候得ハ大抵流弊ノ生スヘキ
御懸念有之間敷若シ然レハ古今萬國ニ御超越

被遊候御良法ニ有之ヘクト愚考ノ儘不顧狂妄
奉申上候

第六號

外國商業規則案二條

第一

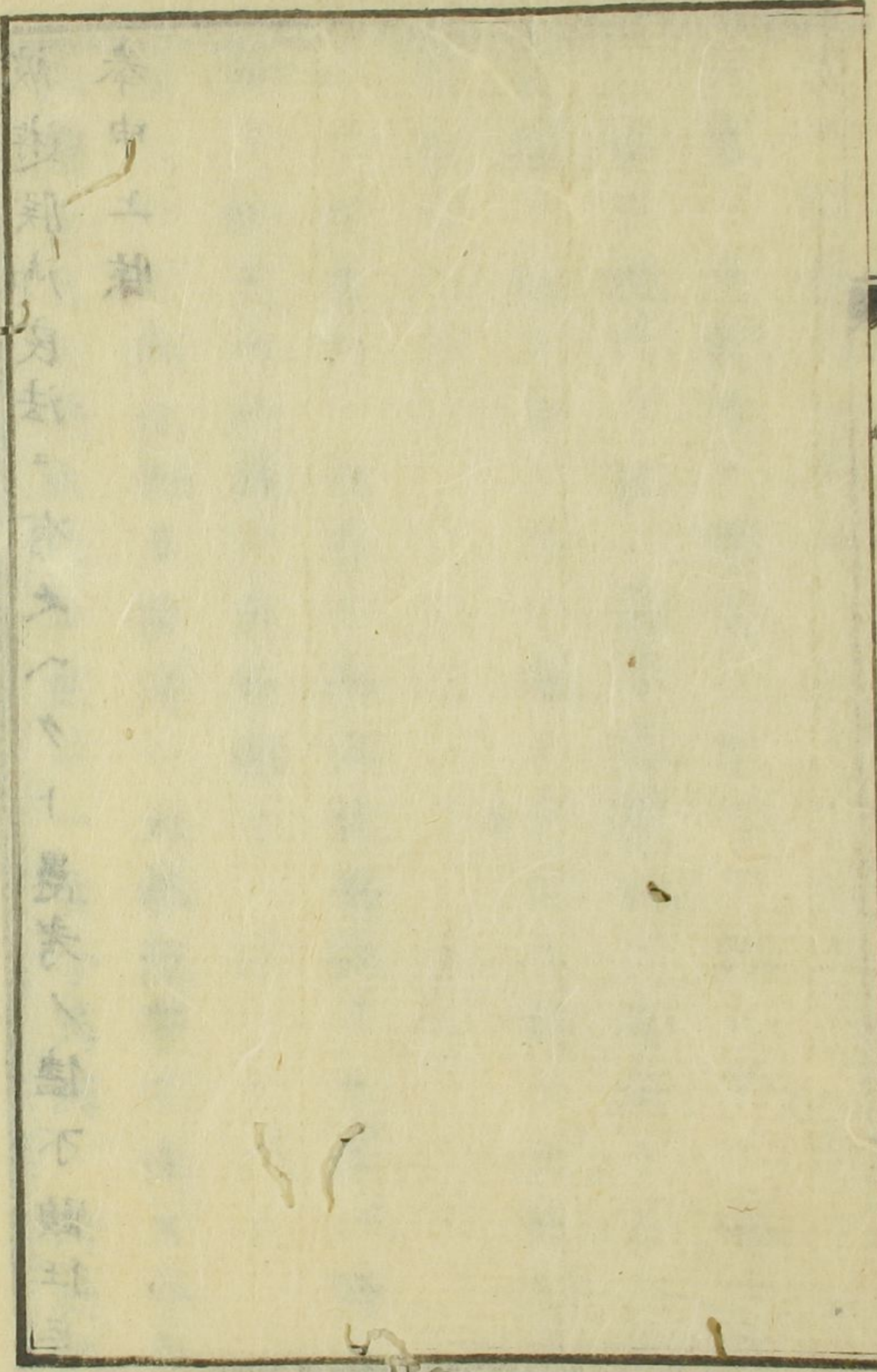
外國人ト商社ヲ結候儀差許候事

第二

商社取結差許候共右商業ニ付損失有之節政府ノ關係ハ無之事

右之通御規則相立候テハ如何

外國交際課



第七號

民間所持船規則案二條

第一

軍艦ノ外何船タリモ庶人所持ノ儀差許候事

第二

右船政府御用之節ハ常變ニ拘ハラヌ相當ノ賃
錢ヲ給候事

右之通御規則相立候テハ如何

外國交際課

第八號

外國人ニ被雇候者規則案二條

第一

誰人ニ限ラス官許ヲ不受外國人ニ雇ハレ候儀
可為嚴禁事

第二

外國ノ官職ヲ受ケ候儀同断之事
右之通御規則相立候テハ如何

外國交際課

第九節

天主教ヲ毆ノ議

舉母議員川西六三

天主教日ヲ追テ延蔓スルヲ拒ムニ説諭ヲ以テ
スレモ頑固ノ民情解シ得サルヲ刑セサレテ國
ノ禍機ヲ漸々繁茂セシメ其宗ニ迷溺スルノ徒
未タ國家ニ妖ヒスルヲ必セリ断然嚴刑ヲ以テ
芟除シテ如何

第八一條	第七	第六	第五	第四改正	第三	第二	第一改正	號數
五月十七日	五月十二日	五月七日	同	四月廿二日	四月七日	三月廿二日	四月二日	月日
百九十二人	百九十一人	三十九人	百四十六人	百六十三人	百七十二人	百廿三人	百九十八人	可トスル者
十七人	五人	百四十二人	九人	十一人	七人	六十九人	一人	否トスル者
可	可	否	可	可	可	可	可	決

大正...
 五月...
 六月...
 七月...
 八月...
 九月...
 十月...
 十一月...
 十二月...
 合計...

明治二年春三月
議案錄 第一

第一條 議案錄第一卷第一頁

明治二年春三月
議案錄第一卷第一頁

同	第九	第八二條
刑行嚴	五月廿二日	同
同	九十九人	二百十六人
三十二人	一人	百十人
百七十四人	可	未決
否	否	

- 第一 新規株式御許相成候様仕度議
- 第二 度量ヲ同フスル之議
- 第三 火葬御廢止之議
- 第四 中大夫以下土著可然之議
- 第五 通稱ヲ廢シ實名ノミヲ可用事
- 第六 赦令御廢止可然議
- 第七 大名領分飛地無之様仕度議
- 第八 罪人之財産ヲ没入スヘカラサル之議
- 第九 切腹禁止可然之議
- 第十 人ヲ賣買スルヲ禁スベキ議

新規株式御許相成候様仕度議 無名

是迄新高賣工夫仕候者ニ株式御許ト申事無御
 座候間折角元手ヲ費善キ工夫致シ候ヲ
 余人直ニ真似仕候間最初工夫仕候者ハ元手ヲ
 取戻兼候右故自然新規ノ工夫ヲ不致様ニ成
 行日新ノ御趣意ヲ失ヒ候様立至申候依之此度
 別段改テ御布告有之以來都新新規商賣申立候
 者ニハ其株ヲ御許ニ相成候ニ同業ノ者無之
 様被成下度充永代株ト申譯ニハ無之十年又ハ

十五年十御定其者元手ヲ取戻候上相應ノ利分
ヲ得候様奉願候若シ右年限中ニ同業相始度存
候者ハ株主ニ示談ヲ遂ケ候様仕度且又右株式
御許相成候上ハ相當御運上ヲ株主ヨリ相納
候様被仰付度奉存候右ノ通ニ相成候工ハ新
規商賣ヲ相始候者多分ハ儲可有之儀ニ付銘々
工夫ヲ廻ラシ自然智識モ相進ニ遂ニハ御國警
昌ノ基共可相成奉存候

度量ヲ同フスル之議

公議所書記

小野清五郎

度量ノ二者ハ制度ヲ定ムルノ本原ニシテ和漢
西洋共ニ之ヲ慎重スルハ勿論ナリ本邦上代人
事ハ置テ論ゼズ方今專ラ用ユル處ノ度ニ二種
アリ一ハ鯨尺ト名ヅク衣服ヲ裁スル等專ラ之
ヲ用ユ一ハ曲尺ト名ヅク木匠等專ラ之ヲ用ユ
其他猶數種ノ尺アリト傳聞仕候量モ亦甲州ニ
テハ武田氏ノ遺制ニ因リ三升ヲ以テ一升トナ

セリ右様度量ノ制一定セザルニヨリ姦商等其
時ノ便ニヨリ或ハ曲尺ヲ用ヒ或ハ鯨尺ヲ用ヒ
以テ人ヲ欺クノ伎倆ヲ施セリ且物ニヨリテ用
ユル所ノ尺ニ不同アルハ煩雜ト云フベシ以来
度ハ曲尺ヲ以テ正トシ其餘ハ都テ廢棄シ量モ
亦通常ノ制ニ異ル者ハ一切廢棄可然ト奉存候

下總國香取郡加藤淵村
百姓
權之丞

火葬御廢止ノ議

下總國香取郡加藤淵村

權之丞

井蛙管見ニ微事奉申上候今般御維新復古養
老ノ御仁政被仰出頑愚私共迄難有奉存候夫
レ孝ハ百行ノ源徳ノ基慎終追遠モ孝ノ一事ト
奉存候先朝
持統天皇ノ御宇火葬初シヨリ以來親ノ身體髮
膚ヲ火灰シテ埋葬シ慟哭涕泣セズシテ却テ愉
快葬送ノ禮ト心得
皇國ノ國體ニ背キ候弊

風痛心歎息罷在候處今般 御維新ノ折柄忌諱
ナク可申出旨被 仰出候ニ付不顧恐奉申上候
舊幕ノ政事ニテハ新ニ墳墓ヲ築事制禁ニ御座
候私共近邊村々墳墓ノ地狹迫ニテ民口次第ニ
相増スニ至テハ遂ニ葬地モ無之人死スルトキ
ハ無據身體髮膚ヲ火灰シ父祖々先骸骨有之候
地ヲ再ビ掘發キテ其骨灰ノミ埋葬仕候且父祖
死去シ數日ヲ經ズシテ又死去仕候者有之時ハ
前ニ死セシ父祖ノ骸骨ヲ掘發キテ共ニ埋葬仕

候是レ子タルノ道ニ相背キ痛心歎息罷在候得
共墳墓狹小新築制禁ニ有之候間不得已困苦罷
在候當今奉更始ノ初天下火葬ヲ嚴禁シ土葬被
仰出新ニ墳墓ヲ不毛ノ地ニ築キ候様奉願候

中大夫以下土著可然ノ議（福智山議負中野齋）
今度中大夫以下東京定府被 仰付候哉ニ拜兼
仕候其實是非ヲ不伺候得共來地有之面々ハ土
著被 仰付候方可然哉ニ奉存候從來旗下領ハ
多分民政潰散法禁モ難被行成行候故御維新ノ
際其主ヲシテ邑ニ就シノ民風一洗ノ盡力當今
ノ急務ト奉存候且大都會ニ在任仕候得者士卒
ニ至迄益柔弱ニ陷ル往時ニ不異候様可相成奉
存候

第一部

一 通稱ヲ廢シ實名ノミヲ可用事

第二

亦官位ヲ以テ通稱ニ換ル等ノ弊モ矯シ上

下一般實名ノミヲ可用事

軍務官判事

森金之丞

姓名ハ本ト各人ヲ分別スルノミナ者ナリ然ル
ニ本邦從來通稱實名ト云フ二ノ者アリ通稱ハ
何兵衛何左衛門等ノ類是ナリ然ルニ今其本原

ヲ尋ヌルニ多クハ皆官名ナリ或ハ又間々異稱
ヲ有スルモアリ其官ニ非スシテ之ヲ稱シ其實
名ヲ用ヒズシテ異稱ヲ設ル等其不經ナル固ヨ
リ論ヲ待タズ又官位五位以上ニ至テハ其國守
國介ニ非ズシテ濫リニ某ノ守某ノ介杯ト稱シ
譬ヘバ大和守ト稱スル者モ真ニ大和國ニ守タ
ル者ニ非ザルノ類比々是ナリ其他某ノ四位某
ノ五位杯ト其位ヲ以テ其通稱ニ換ヘ偶同姓同
位ノ者有之時ハ稱呼混淆シテ何人タルヲ辨識

シ難キニ至レリ是皆實名ヲ不用ノ故ナリ且又
實名ニ其字數モ簡約ナレトモ通稱ニ至テハ或
ハ二字或ハ三字或ハ又五六字ヲ用スル者アリ
實ニ煩雜無紀ノ至リト云フヘシ故ニ以來一切
通稱ヲ廢シ亦官位ヲ以通稱ニ換ル等ノ弊モ廢
シ貴賤上下都テ實名ノニ相用候方可然奉存候

赦令御廢止可然議

會計官權判事

神田孝平

竊ニ案スルニ 朝廷ニ吉凶ノ大禮アリ毎ニ赦
令ヲ行ヒ罪人ヲ赦ツトハ和漢古今ノ常典ナリ
然レ凡其理ハ頗ル不經ニ屬ス凡者アリ夫レ人
君ノ人ヲ刑スルハ好テ之ヲ為スニ非ス寧口一
人ヲ罰ニテ數人ヲ赦ハントノ趣意ナレハ其形
ハ不仁ニ似タレ凡其實ハ至仁ヲ行フナリ之ニ
反シテ赦令ヲ行フ時ハ一人ヲ赦サンカ為ニ寧
口數人ヲ陷レントハ趣意ニ當リテ其形ハ至仁

ニ似タレ凡其實ハ不仁ノ甚シキナリ且夫罪輕
クシテ赦スヘキ者ナレバ 朝廷ニ大禮ナシト
雖之ヲ赦スヘシ又罪重クシテ赦スヘカウナレ
者ナレハ 朝廷ニ大禮アリト雖赦スヘカラス
赦スモ赦サ、凡モ 朝廷ノ大禮ニ關係スヘキ
トニ非ス况ヤ刑律ハ永世ノ法ナリ赦令ハ一時
ノ事ナリ一時ノ事ヲ以テ永世ノ法ヲ破ル可ナ
ラニヤ此數ノ者皆義ニ戾リ理ニ反ス故ニ云頗
ル不經ニ屬ス凡者アリト方今文明日進ノ際此

等ノ事モ亦御改正アルヘキニ似タリ如何

等ノ事モ亦御改正アルヘキニ似タリ如何
等ノ事モ亦御改正アルヘキニ似タリ如何
等ノ事モ亦御改正アルヘキニ似タリ如何
等ノ事モ亦御改正アルヘキニ似タリ如何
等ノ事モ亦御改正アルヘキニ似タリ如何
等ノ事モ亦御改正アルヘキニ似タリ如何
等ノ事モ亦御改正アルヘキニ似タリ如何
等ノ事モ亦御改正アルヘキニ似タリ如何
等ノ事モ亦御改正アルヘキニ似タリ如何
等ノ事モ亦御改正アルヘキニ似タリ如何

大名領分飛地無之様仕度議

上総國武射郡

真行寺和泉

諸大名領分其身上ニ寄或ハ一國一圓或ハ一郡
一圓或ハ一郷一圓下シ賜候様仕度奉存候舊幕
府徳川源家康公ヨリ三四代ノ間ハ一國一郡一
郷等ヲ一圓ニ宛行申候處近來此所ニ一村彼所
ニ二村所々飛地ニ宛行候ニ就テハ自然領分ノ
取締モ不行届地方掛リ役人往来ノ費種々ノ弊

害ヲ生シ申候且又各藩寛仁苛酷不同ニ御座候
得ハ庶直人撰諸國工監察使ヲ以可否曲直御糺
明賞罰嚴重ノ御沙汰被 仰出候様奉存候

大分縣令森田壽之助

罪人之財産ヲ没入スベカラザル之議

公議所書記

小野清五郎

夫レ人ニ貴賤賢愚之別アリト雖モ我々生命ヲ
愛シ我之財産ヲ護スルニ至而ハ其心同一ニシ
テ毫モ異ル事ナシ故ニ國家刑法ヲ設クル之趣
意モ畢竟不得已トコロニシテ一人ヲ罰シ其他
ヲ懲ラス之所以也文明開化之國ニ於テハ之ヲ
慎重シテ毫モ其間ニ私ヲ用ユル事ナシ然ルニ
本邦古來之風習罪アル者之財産ハ盡ク之ヲ官

ニ没入シ之ヲ闕所ト名ヅク是レ人ヲシテワレ
之財産ヲ保護スル能ハサラシムルニ非ズヤ其
弊ヲ極言スレバ政府人之罪アルヲ幸トシテ其
産ヲ没入シワレ之私ニ供スル之理ナリ是等之
事文明開化之國ニハ無之義ト傳聞仕候國家
御維新之際断然此等之事御廢シ以來罪人ノ財
産ハ其妻子或ハ親戚等へ盡ク與フベキ義可然
存候

罪人ノ根絶スル人ノ...

切腹禁止可然ノ議

公議所書記

小野清五郎

本邦士ヲ刑ス膏毒切腹ノ科アリ又其人ノ罪曖
昧ニシテ未ダ定ラザル者多クハ自ラ切腹シテ
其罪ヲ償フ是レ本邦武門ノ士嗜々稱揚スル所
ナリ然レドモ切腹ノ事西洋各國ニハ絶テ無キ
所ト奉及候且命ヲ奉シ切腹スル者ハ猶可ナリ
命ヲ待タズシテ切腹スル者ニ至テハ不經ノ甚
敷ト云ベシ如何トナレバ其人果シテ無罪ナレ

人ヲ賣買スルヲ禁スヘキ議

刑法官權判事

津田真一郎

人ヲ賣買スルハ元來有間鋪ナリ和漢西洋
共古來人ヲ賣テ奴婢トスル惡風アリ奴婢ハ人
ヲ牛馬ニ同シウスルモノニテ人道開明ニ趣ク
ニ從テ此惡風追々消失タリ然ルニ
皇國目
今猶娼妓アリ娼妓ハ年季ヲ限リテ賣ラレタル
者ニテ年季中ハ牛馬同様ナルモノナリ此娼妓
アル故ニ女子ヲ賣買スル惡風アリ女子ヲ賣買

スルヲアル故ニ人ノ處女ヲ勾引シ略賣スル惡
事アリ願ハクハ今ヨリ嚴令ヲ下シテ人ヲ賣買
スルヲ禁止シタキナリ尤娼妓ヲ無クスル
ハ未タ出来ヌナレハ青樓ハ舊ニ仍リ存シ
置ルヘシ然ラハ娼妓ハ奈何シテアルヘキト云
フニ俗ニ所謂地獄賣女ト同様ノ振ナルヘシ西
洋諸州ニ女郎アルハ即此法ナリ故ニ彼地ニテ
女郎トナルモノハ身持アシク懶惰淫奔ノ女自
好シテ地獄ニ墮ルナリ其地獄ノ苦ヲ受ルハ即

所謂自業自得ナリ此方ニテ隨分身持正シキ女
モ惡父母伯兄等ニ賣ラレ又勾引サレ賣ラレテ
苦海ニ沈ムモノト其情霄壤懸隔ナリサレト猶
客ヲ取ルモ取ラヌモ勝手次第ニテ進退自恣此
方娼妓ノ苦ニ比スレハ至テ樂ナルモノナリト
思フヘシ

...

不詳

明治二年夏四月

定價一匁五分

議案録 第二

...

- 第十一 刑法ヲ待タス私ニ人命ヲ絶ツヲ禁止スルノ議
- 第十二 租税ノ議
- 第十三 非人穢多御廢止ノ議
- 第十四 市廛ノ法ヲ設ケ地稅ヲ納ノシムベキノ議
- 第十五 田地町地面勝手ニ賣買ノ議
- 第十六 五位以下藩臣ニ至マテ位階ヲ定ムベキノ議
- 第十七 漢土及第法御參用可然ノ建白
- 第十八 穢多ヲ平人トシ蝦夷地ニ移スベキノ議
- 第十九 金銀貸附士大夫以上ニ可被許ノ議

命 刑法ヲ待タス私ニ人命ヲ絶ツヲ禁止スルノ議
 刑法官判事試補

第一 鈴木唯

天人ヲ生スルヤ億兆皆同轍ナリ故ニ之ヲ保護スルコトモ亦同一ニシテ愛憎ノ私ナシ人間ノ律法モ亦天理天意ニ基ク者ナレハ律法ノ億兆ヲ視ル事亦同一ナルハ勿論ナリ故ニ貴賤等級ハ人間區ムヲ得サル者ト雖凡然レ凡等級ノ輕重ニヨツテ生命ノ輕重ヲ分ツハ殘刺ノ極ニ

シテ天理ニ戾ル事之ヨリ大ナルハナシ夫レ生
命ハ天ノ賜フ所之ヲ奪フモ又天ニアリ故ニ大
罪アル者ヲ死刑ニ處スルカ如キモ固ヨリ已ム
ヲ得サルニ出ル所ナレバ私ニ人命ヲ絶ツ可ラ
サルハ固ヨリ論ヲ待タズ然ルニ我邦ノ風習士
人タル者下民ノ無禮惡口ヲ咎メテ私ニ之ヲ殺
スノ權アリ國法之ヲ許シテ禁ゼス然レ氏下民
士ノ無禮惡口ヲ咎メテ之ヲ殺スノ權ナシ是士
ノ命重クシテ他民ノ命輕キニ似タリ天理ニ戾

リ又國法ノ本意ニ非ス之ヲ厭棄セサル可ラス
故ニ假令無禮惡口ヲ以テ大罪トスル氏國家刑
法ノ處分ヲ待タズシテ士人私ニ之ヲ殺スハ又
非ナリト云フベシ宜シク此風習ヲ禁止シ無禮
惡口ノ如キハ之ヲ治ムルニ別法ヲ用ヒテ可ナ
ランカ

第二

臣僕妻子女假令罪過非違アルモ君父タル者
律法ヲ待タスシテ私ニ之ヲ殺戮スル事モ亦宜

シク禁ス可シ

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 禁, 可, 事, 儀, 納, 金, 納, 其, 便, 宜, 二, 稅, 七, 勝, 手, 次, 第, 其, 收, ヲ, 人, ノ, 意, 二, 任, ス, 可, キ, 事, 以, 來, 定, 額, 租, 稅, ノ, 外, 新, 規, 租, 稅, 取, 立, ノ, 儀, ハ, 公, 議, 所, 公, 議, ヲ, 經, サ, ル, 向, ハ, 可, 為, 嚴, 禁, 事, 第, 三, 右, 定, 額, 增, 減, ノ, 儀, 七, 同, 斷, ノ, 事, 三）

租稅之議

第一

以來收租ノ儀ハ米納金納其便宜ニ稅七勝手次第其收メ人ノ意ニ任ス可キ事

第二

以來定額租稅ノ外新規租稅取立ノ儀ハ公議所公議ヲ經サル向ハ可為嚴禁事

第三

右定額増減ノ儀七同斷ノ事

右存付ノ儘建言仕候間御評議ヲ奉乞候

軍務官判事

三月

公議所

御中

森

金之丞

跡跡之類

非人穢多御廢止之議

會計官權判事

加藤和藏

非人穢多之儀其緣由確説分ノ兼候得共到底人
類ニ相違無之者ヲ人外ノ御取扱ニ相成候ハ甚
以天理ニ背キ候儀且ハ方今外國交際ノ時ニ方
リテ右様ノ事其儘ニ被成置候テハ第一御國辱
此上モ無之儀ト奉存候何卒此 御一新ニ方リ
右非人穢多ノ稱被廢止庶人ニ御加ヘ相成候様
仕度已ニ舊幕 府ニテ昨春彈内記支配下ノ者
穢多ノ稱廢候儀有之候處 御一新ニ方リ猶右

様ノ儀ニ御心付無之候ハ乍恐 王政ノ大御缺
典ト奉存候間右此度改テ庶民工御加ヘ有之度
奉存候

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

市廛ノ法ヲ設ケ地稅ヲ納メシムベキノ議
當今人民游逸ニ趨リ山野ノ民ハ日々減少シ三
都并諸侯城下ノ民ハ日々倍ス是レ田畝荒廢人
民困弊ノ基ニ御坐候夫レ厚本抑末ハ爲政ノ急
務ニ候得ハ三都及ヒ通邑都會諸侯城下ノ市街
盡ク戸數ヲ限ラセ度候得共御新政ノ初專ラ
御仁恤ヲ御主意ト被遊候儀ニテ今俄ニ街坊
ノ戸數被爲限候テハ其爲メニ生産ヲ失ヒ候者

モ可有之一夫其所ヲ得サルハ聖人ノ所恥併シ
孟子モ論ゼシ如ク市廛ノ制ハ漢士盛代ニモ行
ハレ候儀ニテ本邦ニテハ明智光秀權宜ノ計ヲ
以テ京都地子ヲ免セシヨリ今諸侯城下マテ商
人共自由ニ賣買自分領地ノ如ク仕候是絶テ有
間敷儀ニ御坐候況ヤ方今逐末ノ弊モ盛ニ行レ
候得ハ宜シク市廛ノ法ヲ設ケ田畝ニ準シ其稅
ヲ納メ給ヒ天下窮乏ノ者御賑恤ノ資ニ充テ給
ハ、充當ハ御處置ト奉存候

田地町地面勝手ニ賣買ノ議

第一 會計官權判事 加藤弘哉

田地町地面共是迄表向賣買ト申事ナク皆讓渡
ト申名義ナレ共以來ハ右表向賣買ト申事被差
許可然事

第二

親王公卿諸侯以下士大夫ニテモ同様田地町地
面ヲ買求候儀被差許候方可然事拜領屋敷ニテ
モ賣買勝手次第ノ法被為立可然事

第三

此制度被為定候上ハ悉ク年貢御取立ニ可然
事

田此田此面共長由長由實實ノ中事ナク督事
第一 會指百新法事 味新心
田此田此面相毛ノ實實ノ難

五位以下藩臣ニ至マテ位階ヲ定ム
ミキ之議

日出議員
帆足龍吉

從來武臣ニ 朝廷ヨリ階級ヲ班チ給フハ五
位ニ止リ候得共宜シク五位以下八位九位マテ
モ次第ヲ立諸侯ノ大夫士マテ夫々位階ヲ定メ
給ヒ六位以下ハ大中小國ノ次第ニ隨ヒ其藩主
ヨリ 朝廷ニ請テ授候様ノ御制度被為立度
奉存候是マデ此法則無御坐候故舊幕ノ諸臣諸

侯ノ臣下ニ遇テハ直參ト號シ自矜リ諸侯ノ臣
下モ亦相當ノ禮ヲ知ラス困惑仕候其他小國ノ
臣中國ノ臣ヲ見中國ノ臣大國ノ臣ヲ見ルモ亦
然リ是レ禮制ノ至ラザル故ト奉存候間五位以
下藩臣ニ至ルマデモ位階ヲ一定スベキト奉存
候

漢土及第法御參用可然之建白

會計官權判事

神田孝平

謹案古今萬國士ヲ取ルノ法品々有之趣ニハ候
得共最公正ナルハ漢土ヲ第一ト致シ候趣西洋
人ノ常々稱揚仕候所ニ有之候我邦從來士ヲ取
ルノ法備ハラス就テハ此度御新政ノ折柄漢土
ノ法ニ倣ハセラレ進士及第ノ法ヲ御用ニ相成
候ハバ會議ノ法ト並ヒ行ハレテ東西ノ兩羨ヲ
御合併ノ形ト相成可申候

但シ會議ノ趣意ハ人心一和ヲ致スニ在リ及
第ノ趣意ハ人材ヲ舉ク凡ニ在リ並行ハレテ
相悖ラズ此意御含被成下度奉願候
充漢土及第ノ法ニハ頗ル流弊モ有之由右ハ全
ク科目ノ立方不得宜ト試官ノ公正ナラザレト
ニ出ル事ト相見候工ハ今畧改正ヲ加工試ニ其
有増ヲ奉申上候
毎年一度ツ、時日ヲ定メ海内ノ有志ノ士ヲ募
リ其才學ヲ試シ優等ニ登ル者ヲ舉ケ四等以下

ノ官任之ハ實際ニ試ムルハ
科目ハ實地適用ヲ主トシ和學漢學經濟文章天
文地理兵學律學醫學博物學ノ類タルヘシ
但シ詳ナル事ハ會議ニテ取極可然歟
試官ハ議事所ニテ臨時ニ之ヲ撰舉スヘシ
試業ノ法ハ當日試官ヨリ策問ヲ發シ其場限ニ
對策ヲ作ラセ名ヲ隱シ置試官各甲乙ヲ記シ甲
字最多キ者ヲ上等トスヘシ
右ノ通三回ノ試業ヲ為シ三回共ニ上等ニ登ル

者ヲ甲第トスヘシ
試業ノ後對策ニ試官ノ甲乙ヲ記シタル儘作者
ノ姓名國所ヲ記シ登第落第并ニ其任セラレシ
官階ヲ録シ合シテ一卷トナシ上梓シテ天下ニ
公示スヘシ
以上試業法ノ大畧ニ御座候猶詳ナリハ時ニ
臨ニ酌定可仕義ト奉存候
右ノ如ク御法相立候得ハ大抵流弊ノ生スヘキ
御懸念有之間敷若シ然レハ古今萬國ニ御超越

被遊候御良法ニ有之ヘクト愚考ノ儘不顧狂妄
奉申上候

穢多ヲ平人トシ蝦夷地ニ移スバキ野合議
大軒所ニ請リ蘇我朝日日出議負テ帆足龍告夷地
方今蝦夷之賊追々御平蕩ノ上ハ同所御開拓ノ
儀可然ト奉存候得共同所ハ人口寡少ニテ其事
モ容易ニ行レ難キ儀ト奉存候然レ氏當時穢多
ト申ス一種ノ者アリ古奥羽ニ住セシ十種夷處
ノ裔ニテ上古蝦夷ノ俘ヲ伊勢廟ニ獻シ給ヒシ
ニ牛馬ヲ食ヒ皮肉ヲ投散シ神山ノ木ヲ伐リ叫
呼致セシ故倭姫命朝廷ニ請テ是ヲ諸州ニ遷

シ給ヒ其後田邨磨奥羽ノ地ヲ平ケ蝦夷人ヲ盡
ク日本人トナセシ事ナレハ穢多モ亦常人ト異
ナル事ハ無御座候且穢多ハ盜賊ヲ監スルノ名
アリテ實ハ盜賊ノ淵叢且平人ト交ラサル故其
惡事ニ露顯不仕大ニ政治ノ礙リニ相成申候此
度御一新非常ノ大赦被仰出候廉ヲ以テ宜シ
ク盡ク召集メ伊勢平家ノ上ハ同國ノ開闢
大神祠ニ詣リ祓除シテ平人トナシ之ヲ蝦夷地
ニ移シ金坑村木捕魚等ノ利ヲ興シ耕種畜牧ノ

業ヲ開カシメハ穢多モ亦平人トナルヲ喜ヒ遷
徙ノ勞ヲ忘レ可申此至當ノ御處置ト奉存候

金銀貸附士大夫以上ニ可被許ノ議

會計官權判事

加藤和藏

金銀貸附ノ事從來士大夫以上ニハ不被許候故
唯内容、貸借ニテ不都合不少自今ハ士大夫以
上ト雖モ表向貸附ノ儀被許候方可然事

不許
明治

二年夏四月

定價二外

議案錄

第三

新纂 卷三

即 宣 二年 夏 四月



第二十 身體ハ黥スルヲ禁之議

第二十一 戸口ノ權ハ官ニ有ヘキノ議

第二十二 官吏兵隊之外帶カテ廢スルハ随意タルヘキ事

第二十三 年号ヲ廢シ一元ヲ可建ノ議

第二十四 布告ノ書ニ假名文ヲ用ヒ且板行ニス可キ事

第二十五 刑罰ハ其一身ニ可止議

第二十六 諱名闕字擡頭闕畫ノ類可廢ノ議

第二十七 錢ノ位ヲ定メ之ヲ其面ニ記ス可ノ議

第二十八 利足ノ定限ヲ可廢止ノ議

第二十九 皇國ノ人多ク良人トナラシメ外國人ヲ以テ奴隸トスラ許スノ議

身體へ黥スルヲ禁之議

備中淺尾議員 坪和錦蔵

俗ニ鷲ノ者駕籠昇渡リ中間ト唱ル者元來無智
ナレハ父母ニ受得タル身體ノ大切ナルヲ知ラス裸
躰ヲ榮トシ膚ニ人物花鳥ノ黥ヲナシ自ラ傷ルハ
愍ムヘシ且外國人ニ對シ甚恥ヘキ事也亦罪ヲ犯
シタルモノ墨刑ノ跡ヲ消サンカ為メ畫罔ヲ黥スルアリ
サレハ刑典ニモ妨アルヘシ舊幕府ニ於テモ禁制ナ
シ此其本ヲ斷セサル故惡風止マサル也依テ其黥ヲ

内職ニナス者ハ嚴刑ニ處セラルヘキ旨豫メ揭示シ後
犯スモノアラハ刑典ニ處シ衆ニ示シタマハ、相止ヘク
ト奉存候

戸口ノ權ハ官ニ有ヘキノ議

福知山議員 中野齋

戸籍人口ハ國家ノ大本況ヤ
皇政一新外國交際ノ秋ニアタリ廣ク各國ノ盛
衰強弱ヲ較量スルモコノ戸口ニ出ルナレハ精密檢
査シテ一日モ忽カセニス可カラズ依テ天下戸口ノ
權ハ已來官司ニ掌ラシメテ僧徒ニ任セス嘗テ
中井竹山カ草茅危言ニ論シタル戸口ノ部ヲ即
今直ニ御採用可然奉存候

口、對、官、一、百、一、十、一、萬

新、城、山、縣、長、中、江、香

大、本、出、ア

第一 官吏兵隊之外、帶切、廢、九、隨、意、タ、ル、事

第二

官吏、一、雖、ハ、脇、指、ヲ、廢、ス、ル、ハ、隨、意、タ、ル、事

森、金、之、丞

謹、而、案、ス、ル、ニ、人、ノ、刀、劍、ヲ、帶、ス、ル、ハ、外、ハ、以、テ、人
ヲ、防、キ、内、ハ、以、テ、己、レ、ノ、身、ヲ、護、ス、ル、所、ニ、テ、天、下
動、亂、ノ、際、ハ、又、要、ス、ベ、キ、ア、リ、然、レ、ド、モ、世、運、漸、ニ

文明ニ赴キ人々自ラ道義ヲ尊キヲ知ルニ至テ
ハ粗暴殺伐ノ惡習自ラ相息ニ此等ノ物モ畢竟
虚飾ニ供マシムルニ過ギサルニ方今國家鎮定
皇運日隆興良法以テ内ヲ正シ兵制以テ外ヲ守
ル此際ニ當テ人各禮節ヲ砥礪シ所謂粗暴殺伐
ノ惡習變ニテ道義自守ノ良俗ト化スベキ也故
ニ自今以後官吏兵隊ヲ除クノ外帶刀相廢シ候
儀随意タルベシ尤官吏ト雖モ脇差相廢シ候儀
随意タルベシ是何ツ偏ニ文事ヲ重クシ武事ヲ

輕クスルニ非ス固ヨリ文武同體唯其名ヲ異ニ
スル者ニシテ政治ノ賴テ舉ル所人各篤ク意ヲ
注キ兩ラ之ヲ盛興スベキナリ今此ニ陳スル所
ノ二題目ハ唯其弊習ヲ一新シテ聊 皇政隆興
ノ際ニ裨補アラシメ事ヲ思而已伏テ諸賢ノ高評
ヲ待ツ謹議

年号ハ本歲月ヲ紀スル為ニ設ケタル者ナレ共
其弊ヤ一代數号アリ煩雜極遂ニ年号バカリ
聞テハ容易ニ辨識シ難キニ至レリ明清ニ至リ
此弊ヲ矯テ一代一号トセシ如ク此度御一新ニ
就テ御改正被仰出一等簡易ニナリタレ共猶
未可ナリト思フ其故ハ目今世界萬國ト御交際
ノ秋西洋諸國ハ皆彼教祖生年ヲ以テ元ヲ紀シ

津田真二郎

年号ハ本歲月ヲ紀スル為ニ設ケタル者ナレ共
其弊ヤ一代數号アリ煩雜極遂ニ年号バカリ
聞テハ容易ニ辨識シ難キニ至レリ明清ニ至リ
此弊ヲ矯テ一代一号トセシ如ク此度御一新ニ
就テ御改正被仰出一等簡易ニナリタレ共猶
未可ナリト思フ其故ハ目今世界萬國ト御交際
ノ秋西洋諸國ハ皆彼教祖生年ヲ以テ元ヲ紀シ

千八百幾年土耳其回部諸國一千二百幾年如德
亞人ハ更ニ天地開闢ヲ以テ元ヲ紀スルト謂テ
四千幾年トカ稱スルナリ何レモ史傳紀年至テ
簡易明亮ニテ如何程不智短才ノ童蒙ニテモ五
百年ハ六百年ヨリ前ナルヲ誰モ疑フモノナシ
皇國ニ於テモ此度御一新ノ秋ヲ好機會トシ
檀原ノ聖世御即位ノ年ヲ以テ元ヲ建百萬
世是ヲ用ヒタマハバ紀傳歲月簡易明亮ナラン
事論ヲ待タサル所ナリ謹テ議ス

布告ノ書ニ假名文ヲ用ヒ且板行ニ可キ事

小學授御用掛 柳河春三

民間へ出ル布告ノ書面ニ細民ノ讀ニ難キ文字
多キハ禁令ノ速ニ行ハルヲ妨クルニ足ル宜
ク定三札ノ例ニ從ヒ可成丈假名ヲ用ヒ止ムヲ
得スシテ字ヲ用ルトキハ傍訛ヲ施ス可シ又一局内
細務一人身ノ進退ニ限リテ除クノ外或ハ全
國或ハ各府各縣ニ普ク布告ス可キ文面ハ始ヨ
リ傳寫ノ勞ヲ省キ悉ク上木ニ摺本ヲ以テ各府

縣ニ分チ遠隔ノ地ニテハ翻刻ヲ許ス可シ此ノ
如クナレハ啻紙筆ノ費ヲ省クノミナラス諸局ノ筆
生以下町役人村役人其他各産業アル輩ノカラ
費ス一無ク傳寫ノ誤モ無ク一舉兩便ト奉存候

刑罰ハ其一身ニ可止議

軍務官判事 森 金之丞

善ヲ賞シ惡ヲ罰スルハ國家勸懲ノ意ヲ寓スル
所以ナリ其人果シテ罪アラハ之ヲ罰シテ宥ル
ス無ルベシ是固ヨリ至當ノ理然レドモ從來本
邦ニテハ其罪ノ輕重ニヨリ特リ其本人ノミニ
止ラズ其妻子親族等ニ波及スルノ刑アリ是レ
甚無情苛酷不道ノ律ト云フベシ若シ一人惡ヲ
ナセバ即チ其者一人ヲ刑シテ足ベシ何ゾ其他

無知無罪ノ者ニ濫及スルノ理アラニヤ宜シク
速ニ此不道律ヲ改正スヘキナリ謹議ス

既得ハ其一良一也

諱名闕字擡頭闕畫ノ類可廢ノ議

刑法官權判事

津田真一郎

闕字擡頭闕畫ノ類ハ漢土何代ニ始リシヤ何レ
モ諂諛ノ惡風ヨリ生シタル事ニテ皇國ニ於
テ是ヲ襲用スルハ豈可恥ノ事ナラズヤ且名ヲ
諱ム事モ漢土ノ陋習ニテ皇國ノ古并ニ世界
萬國ニテハ帝名ヲ諱サルノミカ却テ名ヲ顯ス
事ヲ喜ヘリ古代御名代部ヲ置キ玉ヒ萬國ニ
テ新發明造建等ノ物ニハ大抵其國王ノ名ヲ附

漢書卷之三

八

ケテ其國王ノ榮トセリ幸此度御復古ノ秋右等
ノ弊習ヲ改メ皇國太古ノ良風ニ歸シ名ヲ諱
スシテ却テ名ヲ顯ス事ヲ貴ヒ且擡頭闕字闕畫
等煩シキ諛諛ノ陋習ヲ廢シ度候謹識

錢ノ位ヲ定メ之ヲ其面ニ記ス可ノ議

刑法官判事試補 鈴木唯一

總テ貨幣ノ儀ハ其面ニ其位ヲ記ス可キモノナルニ
從前金銀ハ其位ヲ記スト虫錢ニ至リテハ天保
錢ノ三當百ノ位ヲ記シテ他ハ一切無之太甚ク
不都合ノ事ナリ竊ニ思フニ後來錢ノ儀ハ都テ
諸金質ノ等級ヲ區別シ他ノ貨幣ト比較シ大小
輕重ニ從ヒ其位ヲ定メ之ヲ其面ニ記サバ通用
ニ故障ナク体裁又宜ヲ得ヘシ勿論一面ハ舊

ルモ辯スルアタハズ是ニ於テ金持ハ自ラ之ヲ實
 地ニ用ユルナケレハ之ヲ人ニ貸シテ利足ヲトル
 是レ利ヲ貪ルニ似タリト云之ヲ世用ニ供スレハ空
 シク大寶ヲ藏ムルニ勝レリ又之ヲ借ル者ハ之ヲ
 用ヒテ一時ノ窮ヲ凌キ又永久ノ大利ヲ得ルモ
 有之ハ縦高利ヲ拂フモ聊カ意トセサル者アリサレハ
 金持ハ世ノ寶ヲ持ツ者ニシテ借ル者ハ世ノ寶ヲ
 流通スル者ナレハ借ル者ノ媒妁ナケレハ金持モ之ヲ
 融通シテ世用ヲナスニ由ナカルレ勿論彼此皆一已

ノタメニ計ルト虫自ラ世事ヲ撈取スナキニモ非ラス然
 レハ縦高利ヲトルモ又禁止スルニ足ラス且利足ノ
 高低ハ時ノ勢事ノ緩急等ニ從テ變動スルモ又自
 然ノ勢ニシテ之ヲ如何トモス可ラサル者アリ且利足
 ハ金ヲ使ヒタルノ返禮ニシテ地ヲ借リ家ヲ借リテ
 地代家賃ヲ拂フモ一般ナリ然ルニ返禮ニ御定
 メハ無之トモ差支ナカルヘキナレハ後來利足ノ御定
 メハ御廢止ニシテ可然歟ト愚考仕候

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible due to fading.

皇國 乘人多ク良人トナシテ外ノ人ヲ
以テ奴隸トスルヲ許ス

開成學校權判事

細川潤次郎

謹テ按スルニ 皇國封建ノ制ニ治
至尊ヲ除クノ外ト雖 臣ノ君主ノ權及
臣ノ亦夕涯 際ヲ見ズ苟モ其臣僕タル者ハ
奔走兼順ニ暇ア ラザランコトヲ恐ル
一時ノ怒ニ乘ジテ之ヲ手及 ストモ
敢テ之ヲ非トスルコト能ハズ此レ蓋シ文
明ノ國ニナキ所ニシテ此ノ如キハ知識由

開クルナク學術由テ進ムナシ何トナレ
人々疑懼ヲ抱キ拘迂ノ説ニ循ヒ只小廉曲謹ヲ
以テ涉世ノ大道トナシテ別ニ磊落奇偉ノ一ニ
心ヲ用ヒズ此等ノ人ノミ世ニ滿ツレバ其國ノ
弊タル勝テ言フ可カラズ今之ヲ拯リレト欲セ
皇國ノ人ヲシテ多クハ良人トナラシメ外
國ノ人ヲ以テ奴隸トスルナク許ス可シ方今封
建ノ制猶故トシ如シト雖レ客歲以來百度維新
ノ機會ニ乘ズ可ク且ツ諸藩ノ中ニモ既ニ還封

ノ議ヲ立ルモアリ此議若シ行リルレバ殊ニ然
リトス其君
至尊ノ臣トナリテ其臣モ亦大同ジク朝廷ノ
臣トナラシメハ居家日用ノ際必ラズ使令ニ供
スルニ乏シキノ患アル可シ歐羅巴ノ人ハ支那
印度或ハ亞非利加ノ黑人等ヲ雇ヒ奴隸トシ自
ラ良人トナリテ之ヲ驅使ス吾何為レゾ又此ノ
如クナサシラン支那人ハ善ク勉強シテ事ヲ操
リ簿録割烹等凡テ家中ノ事ニ用ユルニ宜シ黒

奴ハ身體強健ニシテ之ヲ耕作或ハ海上ノ諸業ニ用エルニ宜シ而メ其受クル所口ノ俸給甚タ廉ナルヲ以テ歐羅巴人之ヲ役シ拱手シテ事業ヲ成ストヲ得タリ今之ニ倣ハント欲ス凡習俗言語ノ同シカラザルヲ以テ一時ニハ施行シ難シト雖凡若シ國家法ヲ設ケテ國人ノ擅マ、ニ外人ヲ雇フテ奴隷トスルヲ許シ其名ヲ雇主ノ戶籍ニ係シ雇主ヲシテ嚴ニ之ガ約束ヲナサシメバ天下ノ廣キ必ズ喜テ之ニ應ズル者アラシ

茶紙ヲ製スル者ハ支那人ヲ雇ヒ蒸氣機関ヲ用ユルニハ黒奴ノ事ニ慣レタル者ヲ雇フガ如キ凡テ國中經濟ノ道ヲ助クレバ其益タル蓋シ淺鮮ニ非ズシテ後來國人ノ開化日ニ進ミ月ニ増シ相勵相競ヒテ爭フテ獨立不羈ノ良人トナリテ歐羅巴人ノ所謂「スレイヴタル」ヲ耻ル者多クナル可シ此其國ヲシテ文明ナラシムルニ於ケル其功實ニ何如ゾヤ客歲刊布ノ政體中私ニ外國人ヲ雇フト勿レトイフ大禁ヲ掲ゲタリ今

第三十 民間所持船規則案二條

第三十一 外國人ニ被雇候者規則案二條

第三十二 治水ノ議

第三十三 棄兒院御取建之議

第三十四 僧尼ヲ私ニ度スルヲ禁スルノ議

第三十五 天主教ヲ毆ノ議

第三十六 佛祭ヲ禁止神儒祭ヲ可設ノ議

第三十七 鎮守府將軍ヲ置ヘキ議

第三十八 秤量ヲ一ニ歸セシムル之議

第三九 税法改革ノ議

第四〇 公武ノ別ヲ廢スル事

第四一 衣服ノ制度ヲ定ムル事

第四二 民間所持船規則案二條

民間所持船規則案二條

第一

軍艦ノ外何船タリモ庶人所持ノ儀差許候事

第二

右船政府御用之節ハ常變ニ拘ハラズ相當ノ賃
錢ヲ給候事

右之通御規則相立候テハ如何

外國交際課

外國人ニ被雇候者規則案二條

第一

外國人ニ被雇候者規則案二條

第一

誰人ニ限ラス官許ヲ不受外國人ニ雇ハレ候儀
可為嚴禁事

第二

外國ノ官職ヲ受ケ候儀同断之事
右之通御規則相立候テハ如何

外國交際課

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '人' and '水'.

治水ノ議

古河議負 來次傳四郎

今々 皇國內ノ河江概子大ニ壅塞シ水行自ラ凝滯シ
國人災害ヲ受ル丁一年一年ヨリ甚ダシク河底
ノ高キ坊堤ヲ隔テ舟船ヲ見ルニ至ル今
皇政普施シ既ニ治河局ヲ開カセラレ淀河ノ水
道ヲ疏濬セラルト承ル沿河ノ民
聖恩ヲ蒙ル無窮ナリ然レ氏未ダ天下ニ及ボカ

ルベキヲ聞ス願クハ
皇國中ニ及ボサレ大河小川トナク盡ク之ヲ疏
瀾セラレナハ水害立口ニ減セン帝下民ノ幸福
ノミナラズ實ニ天下ノ羨事ナリ尤其御費用莫
大ニテ御多事ノ折柄届カセラレ間敷カ依テ彼
ノ國債法ヲ以テ先ヅ治水ノ課ニ被為充至急御
施行被為在度奉存候敬白

古河精貞

古河精貞 奉書

棄兒院御取建之議

南部侍從公議人

中里行藏

阿部基之介内

安川文九郎

夫レ國ノ本ハ民ニアリ故ニ人民増殖ヲ以テ先
ト為ス傳聞ク西洋文明國ニテ民生ヲ愛スル實
ニ至大ト云可シ妊娠ノ婦人アリ或ル人其婦人
ヲ打ツ婦人害ナシト雖氏若シ胎内ノ子死スル
時ハ其打シ者死罪ナリト云茲ニ於テ文明政府
ノ民ヲ愛スル推テ可知就テハ

義案録第四

皇國ニ於テモ密通或ハ窮民ニ至テ不得止女醫
ニ託シテ隨胎ヲ計ル者不少屢々是ヲ禁スト雖
凡猶不止今又悉ク嚴令ヲ下シテ深ク是ヲ糾ス
時ハ自然捨身ノ妊婦出来却テ一舉ニ母子ノ二
命ヲ絶ニ至ル歟當時貧民御救助ノ件々御取調
ノ間彼ノ西洋ノ棄兒院ニ倣ツテ良法ヲ製シ新
ニ棄兒養育ノ一舎ヲ御設有之候ハ枯骨ニ及
ブノ御仁恤凡可申哉尤右費用ハ賣女渡世ノ
者共相當稅銀被仰付候テ可然儀ト奉存候

僧尼ヲ私ニ度スルヲ禁スルノ議

舉母議貞川西六三

俗家ノ子弟婦女ヲ私ニ度シテ僧尼トスルヲ
嚴ニ禁止シ其事情ニ由テ官許スルハ大寶ノ令
ニ復シ告牒ヲ給フテ如何

但牒表 國所何誰子弟受戒寺ト 裏 破戒ノ罪アレハ旅僧タリ凡鞠罪ニ住僧
タリ凡麻布、緇衣ノ外禁止

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

天主教ヲ毆ノ議

舉母議員川西六三

天主教日ヲ追テ延蔓スルヲ拒ムニ説諭ヲ以テ
スレモ頑固ノ民情解シ得サルヲ刑セサレハ國
ノ禍機ヲ漸々繁茂セシメ其宗ニ迷溺スルノ徒
未々國家ニ妖ヒスルヲ必セリ断然嚴刑ヲ以テ
芟除シテ如何

大小勢前々大夫... 豊後岡議員 中川潜叟 錦織四郎大夫

鎮守府將軍ヲ置ヘキ議

豊後岡議員 中川潜叟

磐城中村議員 錦織四郎大夫

奥羽ノ俗古ヨリ及覆恒ナシ今鎮守府將軍ヲ置キ其反側ヲ安ニス如何

難中保林軍置一ノ...

秤量ヲ一ニ歸セシムル之議

岡部美濃守内 南川秀榮

從來斤兩ニ一定ノ規則ナシ各物ニ各物ノ秤量
ヲ定メ方土ハ方土ノ秤量ヲ用フ國ニ定メ家ニ
定メ紛紜十數目ニ及ヘリ舊幕府秤座ノ制アレ
ハ其本原ノ斤兩ニ定制ナキヲ以テ却テ姦商欺
騙ノ把柄トナレリ今其各物ニ繫ケテ區分セ
ルヲ左ニ掲ク
一斤之秤量

山椒 七十目 紅花 百目 五倍子 百三十目 當歸
 地黄 黃連ノ属 生百八十目 劉百六十目 茶 二百目方今往々唐目ヲ用フ
 唐目 百六十目 白目 二百三十目 平野目 二百二十目 山目
 二百五十目 葛粉 二百目 又三百目 砂糖 黑二百三十目 氷二百三十目 白百六十目 干菓子百六十目 綿
 又三百目 實綿 二百目 又三百目 薪 二十貫目
 一兩之定 秤量 藥物ノ類 四匁
 金銀 六十目 四匁三匁
 紛紜 カクノ如シ 就中唐目白目平野目ノ三種ハ
 夫ノ物ニ就ケハ幾ト數千ニ亘リタリ豈人ノ

能辯識スル所ロナランヤ姦商ノ欺瞞ヲ甘セサ
 ヲ得サル所以ンナリ大略一貫目五分之一ヲ
 取テ一斤ト定ム即二百目ナリ其五十分之一ヲ
 取テ一兩トナス即四文目ナリ而シテ銀ノ四匁三
 今ヲ廢セハ更簡ニメ物辯スヘシ若夫大量ノモ
 ノハ貫目ノ有アリ斤兩ヲ湏サラシ右ノ如ク御
 改正アラセラレ度御儀ト奉存候

Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

税法改革の議

神田孝平

舊來の税法ヲ廢シ田地賣買ヲ許シ真沽券直段

ニ準シテ租税ヲ收メシメ如何

右ノ法ニスレハ是マテ煩ハシキ上中下田ノ

別石盛并檢見ナト云フニ及ハス檢地モ要用

ニアラス田畑山野市井村落等一切地稅一律

ニ歸シ悉ク金納タルヘシ且其沽券ニハ役所

ノ割印ヲ押スヘシ中ニハ稅ヲ減セントテ沽

券直段ヲ下ケル者モアラシ故ニ之ヲ防クノ
法先ツ一法ヲ立テ元直段ヨリ高價ニ買ハシ
ト云者アラハ之ヲ賣ルヘシ之ヲ賣ルトテ好
マサレハ附直段通りニ沽券ヲ改メ且ツ附ケ
タル者ニ金高ノ五分ヲ與ヘテ断リヲ云ハシ
ムヘシ是レ其大畧ナリ○今之ヲ行ハシニハ
先ツ其地二三十年間ノ平均物成高ヲ方今ノ
相場ニ積リテ金ニ直シ次ニ其地ノ沽券直段
ノ惣金高ヲ求メテ之ニ前ノ物成金高ヲ割付

クレハ即チ其税額ヲ知ルトテ得ヘシ○此法
ヲ行ヘハ其益測ル可ラス第一農民ノ煩勞少
ナク運送ノ費ナク破船ノ患ナク吏胥姦ヲ為
ストテ得ス若シ姦ヲ為セハ長官坐ナカラ簿
書ヲ案シテ之ヲ糾ストテ得ヘシ詰マリ民ヨ
リ出テシダケ悉ク官ニ收マリ途中ニテ減耗
タス且年々ノ收入ニ大増減ナリレハ政府
ニテ翌年ノ費用ヲ預メ算定スルトテ得ヘシ
是取モ國政ノ要件ナリ概シテ之ヲ論スルニ

此法世ノ為ニ益アルヲ極メテ多シ然レトモ
新奇ノ説ナルカ故ニ世人ノ訝亦甚シカラニ
有識ノ諸君子幸ニ博議ヲ賜ヘ

公武ノ別ヲ廢スル事

常陸國羽生村

生島更作

皇國古ハ公卿武臣ノ別ナシ此別ヲ廢セサレハ
遂ニ確執ヲ生シテ永ク共和ノ政ヲ行イカタシ
但親王ハ
皇帝陛下ノ末家ニテ臣下ノ列ニアラサレハ別
ナリシカレハ職ヲ掌ル事アレハ爵位格式スヘ
テ其職ヲ超ユヘカラス

皇國古ハ公卿在耳ハ何ナシ此ハ何ナシ
常陸國即生村 生島更作
公海ノ俗ヲ察スハ事

衣服ノ制度ヲ定ムル事

常陸國羽生村 生島更作

文武百官ヲ初天下万民寒暑ノ身ニ適スルノ便
ニ随テ禮服ヲ制ス但數等ニシテ煩多ナラサル
ヲ要トス其上下尊卑ハ彩色ニテ別ツヘシ

議案錄

第五

明治二年夏四月



議案錄第四

十四

Faded vertical text within a rectangular border, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading.

新案録

卷五

即出二年夏四月

第廿三 院號ヲ廢シ謚號ヲ可撰事

第廿二 山陵ノ事

第廿一 海防ノ事

第廿 禁止田地賣買ノ議

第廿 設月課錢ノ議

第廿 街道改造ノ議

第廿 大井川架橋ノ建議

第廿 都下諸關門御廢シ可然ノ議

第廿 禁洋豚ノ議

議案錄第五

第五十一

期限ヲ定メ任ニ當ラサルモノハ祿位ヲ

剥スルノ議

第五十二

禁土田ノ買入ノ議

第五十三

武朝ノ事

第五十四

山刻ノ事

第五十五

御親ノ事

院號ヲ廢シ謚號ヲ可撰事

三池議員森

脩

復古ノ大典ヲ被為舉候ヨリ神佛ノ混淆ヲ禁シ
神道ヲ尊ヒ佛氏ヲ斥ケ給フ事千載ノ美事誰カ
是ヲ感戴セサランヤ雖然其末ヲ責テ其本未ダ
立サルニ似タリ如何トナレハ歷代帝王ノ謚號
ハ

文徳帝ノ時之ヲ撰定スト聞ク其後僅ニ三四世
ヲ經テ

言テ金ヨリ

宇多帝ヨリ謚號其文字ニ非ス甚キニ至テハ
冷泉帝以来佛法ニ盡惑シ天皇ノ尊號ヲ廢シテ
院號ヲ用ユルニ至ル中ニハ

崇徳

安徳ノ類謚號ヲ立ルアレ共帝號ハ一二ノ三可
嘆ノ極リニアラスヤ

光格帝ニ至リ始テ旧弊ヲ一洗シ謚號ヲ立ルト

雖御歴代猶旧ニ依レリ今ヤ速ニ

文徳帝追号ノ例ニ准ヒ下

後桃園帝マテノ院號ヲ廢シ天皇ノ文字ニ替ヘ
其謚號ノ文字ハ時代ヲ追鑿シ御撰ヒアル歟亦
ハ其時代年號ノ宜キヲ取り候モ簡便ノ儀カト
奉存候

儀案録第五

二

其執力平... 其諱... 天皇... 文字... 替

山陵ノ事

三池議員 森 脩

中葉以来帝王ノ廟之ヲ浮屠氏ニ托セラレシカ
先帝ノ崩セラル、山陵ヲ營ミ且ツ祭典ヲ御施
行在ラセラレ候上ハ此後共神道ヲ以テ御葬祭
ノ儀ト奉存候依テハ泉涌寺ノ一字洛外間曠ノ
地ニ移シ右地所ヲ清淨シ一場ノ山陵ト被遊候
儀至當ノ事ト奉存候

武内、要禁、殊一舉、之、大、

禁止田地賣買之議

櫻井議貞 近藤門造

民ハ公田ヲ耕シ租稅ヲ收メ其餘粟ヲ以テ吾口ニ給スルハ本業ナリ今ヤ民公田ヲ私ニシ質地或ハ讓地ト号シ全ク賣地ニ致シタル分ハ豪農富商ノ為メニ掠奪セラレ小民ハ其田ヲ借作シテ租稅ヲ兩端ニ收メ生活ノ道益之キニ至ラン元來公田ヲ私ニ賣買スルノ理ハ之レ有マジ御維新ノ秋ニ當リ断然此弊ヲ禁止スル方可然哉

心ヲ生シ常ニ聖恩ノ弘大ナルヲ知ルモノ幾許
カアラシ

山月對照ノ子ノハ香ハ味十四多全ノ
...

街道改造ノ議

富山議真入江民部

天下ニ七道ヲ置クハ地勢ニ因ルト雖モ或ハ曠
平ノ地ニシテ迤邐盤回ナルモノアルハ畢竟水理
ニ沿ヒタル儀ニ可有之ナレ共中ニハ無謂シテ
迂曲ナルモノアルハ特ニ田疇ノ費ユルノミナ
ラス其人馬ノ勞ニ於ケル亦フタメ不少依テ府
藩縣共ニ迂ヲ捷ニシ曲ヲ直ニシ以テ無益ノ費
無之様被仰付度且又七道ノ内本街道裏街道

又ハ捷徑ト稱スルモノアリ右様岐路ノ多キハ
一時便利ヲ得ルニ似タリト雖モ復前件ノ冗費
無ニシモ非ル故穿鑿ノ上可廢ハ廢シ候様被
仰付度候也

大井川架橋ノ建議
大野議員 戸塚左近衛門
大井川ハ諸道第一ノ巨浸急流ニメ古来ヨリ橋
脚樹難キヲ以テ架橋ノ議ナシ且ツ從前之ヲ東
海ノ要喉ニ備ヘ又之ヲ關門ニ擬ス甚シ擾世ノ
陋習ヲ免レサルヲヤ今ヤ率普 皇化ノ遍キニ
當リテ四海一體ニ歸シ偏倚ノ患ナシ昔子産已
レノ乘輿ヲ以テ人ヲ漆洧ニ濟ス其小惠スラ後世
以テ美談トス抑方今ノ御親政御大惠ノ御手始

言上御金書五
何卒此御盛舉御決議ニ相成候ハ、天下億兆ノ至仁至幸ト奉存候此段伏テ懇懇仕候

附考

當今上ニ内外ノ御多端且諸藩モ累年疲耗必迫ノ折柄ニ付國力ヲ費シ候工夫ニテハ速モ事速ニ運ヒ兼申ヘクト愚考仕候就テハ其入費國債ヲ以テ之ニ畿甸并東京ノ富商ニ命セラルトモ敢テ違背致スモノナク欣然トシテ命ヲ奉スベシ何トナレハ右兩地ヨリ年々相往還スルモノ此

川ヲ以テ第一ノ懸念トス况ヤ暴漲ノ時ニ至テハ多分ノ涉錢ヲ費スノミナラス時トシテハ數日沮滯セラレソノ入費極メテ夥シ架橋相成候ハ、永久此患ナク東西ノ人ヲ比鄰ニ行クノ想アラシム其功績モ亦大ナラスヤ是欣然トメ命ヲ奉スル所以ナリ先國債ノ大法三年限ト見積リ譬ハ出金ノ人員百人サレハ預メ三十三人ツ、分配イタシ其中尤鉅富ノ者ヲ撰ニテ第一番トシ其富ノ厚薄ヲ以テ第二第三ノ順叙ヲ立其入

費十萬兩ナレハ初年第一番ノ者ヨリ利足二分
半或三分ノ割ニテ其總高出金致リセ置橋成功
ノ上ハ政府ヨリ嚴密御世話アツテ諸侯ヲ始メ
士庶往来ノ涉錢分別夫々御定メ其暮ニ至リ元
金差戻シ候トキ右一ケ年收納ノ金ヲ原トシ其
不足ハ第一番ノ者ヨリ差加ヘテ皆濟イタサセ
候ハ僅一ケ年ノ取替殊ニ利付ノ金ナレハ左
程迷惑ニモ及マシク夫ヨリシテ又一年ツ、二
番三番ノ順序ニ至リ候ハ追々元金モ減シ其

富順序ノ厚薄ニ從ハ自ラ融通モ相運ヒ格別
難澁目立タル費ヲクシテ事ヲ完クスヘキナリ
但架橋ハ石橋或繰出橋ノ制最モ宜ト雖其
入費鉅大ニ至ルヘシ要スルニ船橋ノ輕便
ニメ且其費ノ少キニシカストス

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

都下諸關門御廢シ可然ノ議

田安中納言家来

神戸誘輔

今般大政更始四海一家ノ御宏謨立サセラレ候
ニ付箱根始諸道關門御廢止被 仰出候ニ就テハ
東京ニ於テモ諸御門々々ノ番兵モ廢セラレ隨テ
和泉橋新橋其他所々新營ノ關門ハ一切廢サセ
ラレ然ルヘシ一體諸關御建設ノ儀ハ 朝廷ノ
御警衛ハ勿論賊徒横行ノ防禦暴客捕止等ノ為
メナレモ何ソ有罪ノ徒ニシテ其遷所ヲ過クヘ

キヤ唯武器ヲ賣買致ス商人ノ通行ヲ見咎メ徒
ニ呵嘖ナドシテ番兵ノ職ノ如シ其他關門ニ益
アルヲ聞ス被 仰付置候藩々ノ費用蓋シ夥カ
ルヘシ國家無用ノ關門ニ有用ノ金銀ヲ費ス事
然ルヘカラス候間新古關門速ニ御廢シ可然奉
存候

今雖大如更故曰或一宗ノ御家無立ヤクナクハ

日安中候吉原米

軒瓦結締

味下請關門御懸ノ下然ハ精

禁洋服ノ議

江右賤民

是洞比古太郎

熟惟ルニ旧幕々季世衣服ノ制度相壞ルニ因
テ屢々嚴令ヲ下シ候ヘ共竟ニ其弊習ヲ洗滌ス
ルヲ能ハス然ルニ嘉永年間米利堅人我ニ渡來
シ和親交易ヲ結ビ尋テ英佛魯等ニ通セシヨリ
爾來洋服短袖輕裝ニメ軍事ニ便ナルヲ以テ之
ヲ用ヒシヨリ奇ヲ喜ヒ新ヲ好ム者之ヲ美トシ
之ヲ便トシ以テ之ヲ服シ其外貌ヲ飾リ其驕奢

ヲ恣ニス是ニ因テ皇國衣服ノ制度大ニ敗壞
セリ是ヲ以テ貴上卑下ノ名分混亂シテ以テ相
立サルニ至レリ願クハ方今復古大新ノ際斷然
ト衣服ノ制度ヲ改立シ上下ノ名分ヲ明ニシ就
中唯兵隊及ヒ軍事ニ關係スル者ノ外一ニ皆洋
服ヲ嚴禁シ無益ノ費用ヲ省キ外貌驕奢ノ弊習
ヲ絶チ皆以テ其分ヲ守リ其位ヲ出サルヤウ仕
度奉存候

御奉存候

至期限ヲ定メ任ニ當ラサルモノハ祿位ヲ剥
スルノ議

筑後藩 麻生弼吉

國內開化ノ原ハ文學技藝御関キニアルヘシ隨
テ富國強兵風俗淳美ニ至ルハ論ヲ待ス既ニ西
洋諸國ニ於テ其盛ナルヲ皆人ノ知ル所ナリ就
中普魯士ニテハ獄囚ニ至ルマテ文學ヲ教育ス
ト云甚至盛推シテ知ル可シ然ルニ學ハ一科ト
雖氏數年ノ辛苦ヲ積ニ非スンハ成業難シ之ニ

依テ我カ國ノ人民其益アルヲ知レモ多クハ姑
息安逸ニ流レ遂ニ終身不學ニシテ止ム蓋シ世
祿アルヲ以テ活計ニ妨ナキヲ以テナリ故ニ開
化進步ヲ得ント欲セハ世祿ヲ廢スルニアル可
シ雖然一朝一夕之ヲ廢セハ活計ニ窮シ凍餓ノ
患モ少カラサルヘシ因テ其利害得失分明ナレ
モ是迄行ヒ難シ方今御交際日新ノ折柄内國ヲ
開クハ最モ御急務故今後三年ノ期ヲ定メ其期
ニ至テ上大夫ヨリ下士ニ至ル迄皆之ヲ試ニ上

大夫其任ニ當ラサレハ其祿位ヲ剥シテ中大夫
トナシ中大夫其任ニ當ラサレハ下大夫トナス
等次第ニ祿位ヲ剥シテ庶人トナシ而メ士庶人
ヲ問ハス學識才能アルモノヲ御撰用被為在候
ハ、必文學技藝並行ハレ文明國ニ至ルモ久キ
ヲ待スト奉存候

義案釋

第六

明治二年五月

第五十二 商税ヲ増シ農稅ヲ減スルノ議

第五十三 商稅及ヒ港稅ヲ増スノ議

第五十四 驛遞ニ馬車ヲ用フルノ議

第五十五 生殺權ヲ穢多頭ニ委ヌヘカラサルノ議

第五十六 車稅ヲ收ムヘキノ議

第五十七 標札ノ議

第五十八 穢多非人ノ身分御改正ノ議

第五十九 渡船場ニテ士民ノ別ナク賃錢ヲ拂フヘ

キハ議

義案釋第六

高税ヲ増シ農稅ヲ減スル議

筑後藩 麻生弼吉

農民ハ減セシムヘカラス人民ハ不學ニ陥ルヘ
 カラス又大ニ窮セシムヘカラス若シ農民減シ
 田圃荒スルキハ五穀不足シテ飢窮ノ難アリ不
 學ニ陥ル、キハ人倫ノ道ヲ失ヒ遂ニ不義不孝
 ヲナスモノ少ナカラス大ニ窮スルキハ強者ハ
 盗ヲナシ且人ヲ殺シ財ヲ奪フニ至ル弱者ハ遂
 ニ凍餓ニテ死ニ至ルアリ然リト雖貢稅此儘ニ

言
シテ農民ヲ教育シ學術ヲ知ラシメハ農ヲ止メ
士トナリ商トナリ或ハ他ニ變スルモノ多クシ
テ荒蕪ノ地ヲ増スニ至ルヘシ如何トナレハ田
圃ノ稅重クシテ士商ニ比スレハ其勞十倍ニシ
テ常ニ廉食ヲ食ヒ弊衣ヲ著シ日夜辛苦シテ漸
ク凍餓ノ患ヲ免ルヘシ實ニ哀愍スヘキモノナ
リ故ニ商稅ヲ増シ農稅ヲ減セハ逸勞平均シテ
自カラ農民繁盛ニ至ル期シテ待ツヘシ是命セ
スシテ農ヲ勸メ荒蕪ヲ開拓シ物產ヲ増加スル

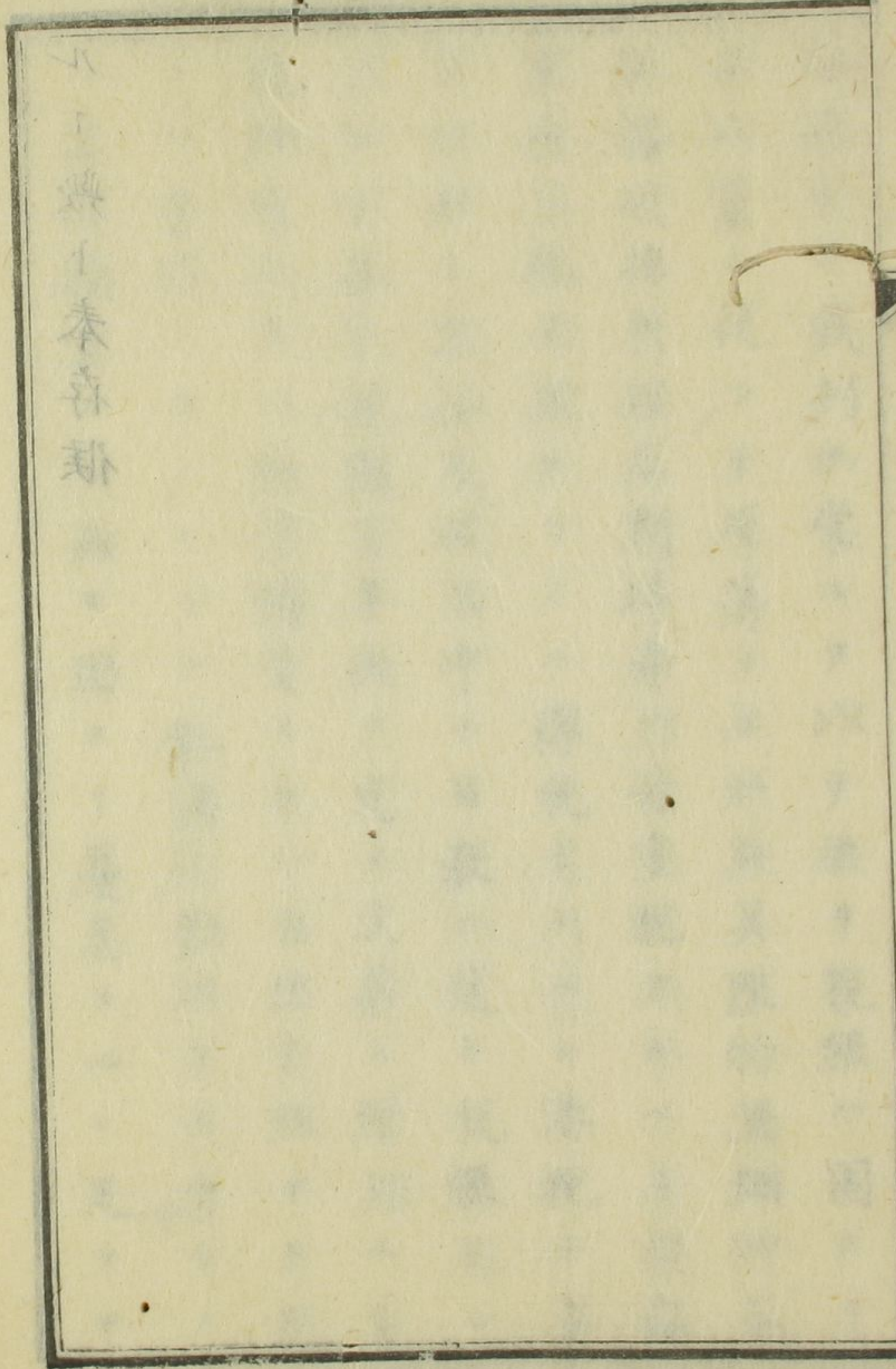
ノ策ニシテ國富ニ財足ルノ自然ノ理ナリ然ル
ニ其稅ヲ減ゼザルハ毎戸ニ説キ每人ニ諭シ
候トモ其効アル間敷故ニ農ヲ勸ムルハ其稅ヲ
減ゼザルベカラズト奉存候

義
録
言
下

皆政府ノ裁判ヲ受ルヲ以テナリ税銀ハ固ヨリ
其産業ニ從ツテ厚薄アルベシ吳服物酒烟艸茶
玩器妓樓料理店劇場等ハ皆重税ナルベシ穀類
書籍其他必用ノモノハ薄税ナルベシ港税ニ至
テハ船ノ大小及碇泊中ノ日數ニ從テ税銀アル
ベシ右等ノ税銀皆年限ヲ定メ次第ニ増スベシ
税銀増スルハ物價騰貴スルハ自然ノ理ナリ然
レモ奢侈ノモノニシテ飢渴ノ難アラサルモノ
ハ其價騰貴スト雖モ固ヨリ憂患スルニ足ラサ

ルト歟ト奉存候

義録第六



驛速ニ馬車ヲ用フルノ議

筑後藩ニ麻生弼吉

驛速ハ往來便利ニシテ人力ヲ勞セサルヲ以テ
第一トス西洋諸國ニ蒸氣車道アリテ往來運輸
ヲ便ニス且四方ニ傳信機アリテ千萬里外ノ通
信モ亦瞬間時ナルハ皆人ノ知ル所ナリ又幾百
里間人ヲ舁シ或ハ人力ニテ遠路ニ重物ヲ荷フ
等ノ一西洋諸國ニ曾テ見ヘサルハ費用多クシ
テ民力ノ勞シ且往復遲緩ニシテ不便ノ極ナレ

義經録

ハナリ或ル海道近傍農夫ノ言ヲ聞クニ驛費殆
ント貢税ノ半ニ過クルト云フ其苦惱實ニ憐ム
ヘシ因テ蒸氣車道ノ造營ナカル可ラスト雖モ
其費莫大ニシテ目今其製難ケレハ先ツ道路ヲ
廣クシ山川ノ地形ニ從テ驛亭ヲ設ケ其驛毎ニ
馬、馬車及ヒ輜重馬車等ヲ設ケ置上下トナク夫
レヲ用ヒ往來運輸スルキハ相當ノ價ヲ出サシ
ムルニ於テハ幾十人ノ勞モ一二人ノ人馬ニテ之
ニ代ル左スレハ良農ヲ妨ケス且所産ヲ増スハ

勿論國家ノ大便利益モ可有御座ト奉存候

義典系第...

論國君之大則保益天下亦保益其本邦也

生殺ノ權ヲ穢多頭ニ委ヌヘカラサルノ議

公議所書記 大岡玄蔵

抑生殺ハ國家ノ大權ニテ公卿諸侯ト雖モ取テ
專ニスルヲ得サル者ハ人命ノ尊キヲ以テナリ
然ルニ謂ユル穢多頭ハ賤辱ノ身トシテ却テ
獨リユノ大權ヲ握リ團聚數千ノ人命公裁ヲ經
スシテ殺戮ヲ專ニスルヲ得タリ是 朝廷自ラ大
權ヲ輕視スルノミナラス并テ人命ヲ輕視スル
ナリ甚ク此理ナシ穢多團聚ト雖モ齊シク

皇國ノ人民ナレハ御維新ノ際宜ク團頭專断ノ
權ヲ奪ヒ死生予奪ノ獄等直チニ政府ノ裁断ヲ
仰クヘキ様御仁慈ノ御處置被為在度候

皇國ノ人民ナレハ御維新ノ際宜ク團頭專断ノ
權ヲ奪ヒ死生予奪ノ獄等直チニ政府ノ裁断ヲ
仰クヘキ様御仁慈ノ御處置被為在度候

車稅ヲ收ムヘキノ議

議員中 租稅課

舟車ノ利人カヲ扶クルト大ナリ尤車ハ道路橋
梁等ヲモイタメ候ヘハ牛車馬車人力車ニ限ラ
ズ相應稅銀御取立ノ法御施行相成候テハ如何
モシ其稅銀公納ノ員數等ハ其職掌關係ノ儀ト
奉存候

但別ニ員數ヲ取極メ御用役ヲモ勤メサス

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible.

標札ノ議

長島藩 久我綱二

方今版籍御改正ノ秋ニ候ハハ當府下ノ市民毎
戸ニ名札ヲ出サセ且又藩屏ノ邸第ノ内疾ク榜
示杭建シモアリ未タナキモ又多ケレハ今更ニ
公卿諸侯ヲ初属下其外未タニ至ル迄モ悉ク賜
邸ノ新旧ヲ論セス榜示杭或ハ標札ヲ顯サシメ
ハ四方ノ知便トナリ御改籍ノ一助ニモナラン
乎

明治二年五月
議案錄

第七

價目表

スレハ通行人武士多ク商民少キ一アルモ計リ
難シ然ルルハ何ヲ以生計トスヘケレヤ以來士
民ノ別ナク均シク賃錢ヲ取り相當ノ税銀ヲ上
納イタシ候様御布告有之度事

議案錄

明宗二年五月

續宋稗史

第卒 墨刑ヲ廢スヘキノ議

第卒 異教ノ闌入ヲ豫メ杜クノ議

第卒 贅書ヲ燒クノ議

第卒 曆ヲ改正スルノ議

第卒 梵鐘銅佛ヲ毀ツノ議

第卒 衣冠ノ議五條

第卒 貴賤ノ別ヲ輕クスル事

義家録卷六

墨刑ヲ廢スヘキノ議
凡輕罪ノ者ヲ處スルニ墨刑ノ科アリ小臣竊ニ
按スルニ此刑ヲ受ル者ハ悔悟過チヲ改ムルノ
意アリト雖モ刑餘ノ證判然身體上ニ存シ良民
ニ齒セラル、トヲ得ス小人ノ常情遂ニ自棄ノ念
ヲ生シ再ヒ罪ヲ犯シテ嚴刑ニ觸ル、者少カラ
ス之ニ由テ之ヲ觀レハ其名ハ輕科ト雖モ其實
ハ慘毒ノ刑トイフヘシ且夫小過ヲ以テ生涯滅

墨刑ヲ廢スヘキノ議

開成學校筆生 土屋榮五郎

凡輕罪ノ者ヲ處スルニ墨刑ノ科アリ小臣竊ニ
按スルニ此刑ヲ受ル者ハ悔悟過チヲ改ムルノ
意アリト雖モ刑餘ノ證判然身體上ニ存シ良民
ニ齒セラル、トヲ得ス小人ノ常情遂ニ自棄ノ念
ヲ生シ再ヒ罪ヲ犯シテ嚴刑ニ觸ル、者少カラ
ス之ニ由テ之ヲ觀レハ其名ハ輕科ト雖モ其實
ハ慘毒ノ刑トイフヘシ且夫小過ヲ以テ生涯滅

除スヘカ
風ニシテ文明ノ國典ニアラス西洋ニテモ古ハ
此刑ヲ設ケタリト雖モ世ノ開明ナルニ隨ヒ皆
之ヲ廢セリト傳聞仕候況文明日進ノ御盛世ニ
當ツテハ此等ノ刑ヲ御廢止相當ノ徒罪ニ處セ
ラレ候方可然奉存候

墨刑ノ類スヘキハ

開元外華至土墨禁正順

異教ノ闖入ヲ豫メ杜クノ議

唐津議貞 中澤見作

一我開闢爾後素有シ来ル正直ノ道ヲ大綱常ト
ナス事

異教ノ我ニ闖入スル所以ハ原ト確立一定
ノ標準トナルヘキ教法ナク儒佛雜駁ナル
ニ由テ彼モ亦異教ヲ擧テ傳化セント欲ス
ルナリ

一天照皇大神ノ皇子皇孫ニ禪ヲ給ヘル智仁

勇ノ三神寶ヲ右ノ條目トナス事
一儒佛洋洋學ト云ヘハ異教モアルニ似タレヒ然ルニアレス三學ノ善語
妙理ハ和文章ニ直シ皇道ニ補翼スル事
右三學ノ我皇道ニ益アル言ハ其學師タ
ル者ニ平假名或ハ片假名ヲ以テ翻譯セシ
メ闔國中純精ノ教法ヲ特立スヘシ其他ノ
書類モ和文一切ニ歸シ童幼ニ研精シ易カ
ラシムル時ハ念歳ニ至ラスシテ博學多才
ノ士ト成リ方面ノ官員タルヲ得ヘシ豈區

マト容易ニ讀難キ書堆ニ頭ヲ埋メテ壯齡
ヲ空ク費スヘケシヤ
一儒佛洋ノ三學者ハ別ニ器ニシ置キ疑問及
翻譯ノ為ノミニ任スヘキ事
右ノ三學ハ我皇國ノ學ニアラス又入門
上堂ノ學ニアラス故ニ童幼ハ勿論成人ト
雖モ勉厲修習スヘカラサルハ當然ナリ斯
ノ如キノ規則ハ嬴秦ノ如ク黎庶ヲ愚ニス
ルニ近シト論スル者アルモ測ルヘカラサ

レハ雜駁ヲ防キ讀易キ和文ヲ以テ速ニ諳
博成才ノ益アルヲ欲スル為ナリ然レハ才
力餘裕アル者ハ格別タルヘキナリ
一皇道學校ヲ盛大ニ兩京其他都會ノ地ニ造營
スヘキ事
右學校ニハ皇族一人博識多才且能辨ノ
皇道學者數名ヲ峻殿耳廡ニ住居セシメ置
キ此ニ佳貴ノ大社ヲ營ニ
天御中主神ヲ始メ書讀ニ殿ヲ設ケテ

天照皇大神ヲ奉奠シ祭り衆庶ノ禮拜ヲ許
シ祭日ニハ皇道ヲ説キ聞シメ素有ノ信
心未タ全ク他教ニ掠奪サレサルヲ煽興シ
仰向篤信セシムヘシ然ル後昔者土耳其國
ノ回教ヲ奉信シ泰西諸國ノ間ニ在テ一切
異教ノ闖入スルヲ謝絶スルノ條約ヲ立ル
が如キヲ海外ヘナシ得ヘキナリ此ニ至テ
始メテ異教ノ闖入ヲ杜クヘシト奉存候

說浮華諧謔ノ文辭其他天下ニ裨益之レ無キ書
籍盡ク灰塵ニ御付シ被遊候ハ、天下從來ノ陋
習ヲ一洗シ人々眼目ヲ拭ヒ、經濟有用ノ學ヲ磨
礪シ而シテ邁世ノ俊傑出ツ可シト奉存候間御
下問相成度候事

發書ニ對シテ、

曆ヲ改正スルノ議

昌平學校教授試補長野卓之允

謹按スルニ曆ハ元來春秋ノ節季晦朔ヲ記載シ
民間百穀ヲ播種耕穫スルニ便シ候處中古以來
五行相尅ノ說ヲ敷衍シ預シメ一歲日々ノ吉凶
臧否ヲ定メ曆中ニ載セ候ハ全ク漢人陰陽道家
ノ說ヲ參酌セシニテ一歲ノ日ニ吉凶臧否アル
ハ固リ之レ無キノ理識見アル者ハ絶テ信用セ
サレ氏無智ノ細民ニ至ツテハ其說ヲ確取シ僻

陋ニ陥リ文明開化ノ治ニ妨害アル少ナカラス
願クハ方今皇政御維新ノ際曆中無誓ノ言ヲ
刪リ節季晦朔日月食ノミヲ記シ御改定可然ト
奉存候間御下問相成度候事

凡四百餘ノ鉢鉢梅鉢ノミ
其ノ中ニ有テハ
其ノ中ニ有テハ
其ノ中ニ有テハ
其ノ中ニ有テハ
其ノ中ニ有テハ
其ノ中ニ有テハ
其ノ中ニ有テハ
其ノ中ニ有テハ
其ノ中ニ有テハ
其ノ中ニ有テハ

梵鐘銅佛ヲ毀シノ議

昌平學校教授試補 長野卓之允

謹按ルニ梵鐘銅佛ハ固リ天下ノ無用物タルニ
論ナシ總テ佛徒多方庶黎ヲ誑惑シ其膏血ヲ窄
シ鑄造セシ者ニ候ハ以來梵鐘銅佛ヲ鑄造ス
ルヲ嚴禁シ現今所在ノ物ハ盡ク銷鑠シテ錢幣
ヲ鑄造シ天下億兆ノ用ニ供シ候儀可然ト奉存
候間御下問相成度候事

一 從來ノ官服其外上下肩衣羽織袴ノ類ハ停止
 アルヘキ事
 一 舊風ヲ一洗スルハ因循ニテハ成リ難シ因
 テ第一此令ヲ發スヘシ當時用テ来レル官
 服ハ古ノ制度ニアラス中古ヨリ誤リ来レ
 ル者多シ決シテ惜ムニ足ラス上下肩衣以
 下ノ服ハ論スル迄モナシ

衣冠ノ議五條

依田右衛門三郎

一 從來ノ官服其外上下肩衣羽織袴ノ類ハ停止
 アルヘキ事
 一 舊風ヲ一洗スルハ因循ニテハ成リ難シ因
 テ第一此令ヲ發スヘシ當時用テ来レル官
 服ハ古ノ制度ニアラス中古ヨリ誤リ来レ
 ル者多シ決シテ惜ムニ足ラス上下肩衣以
 下ノ服ハ論スル迄モナシ

一烏帽子直垂ノ一種ヲ以上下ニ通シテ平常并朝服トスヘキ事

鎧直垂ハ從來武官ノ常服ナリ輕便ニテ宜シ又烏帽子ハ今ノ風折立烏帽子ノ類ニテハ頭ニ戴クニ便ナラス因テ紙或ハ絹ノ類ニテ巴レノ頭ニ合フ如ク作り用フヘシ履モ今ノ履ハ重クシテ奔走ニ便ナラス之レモ皮ニ作り用フヘシ便ニ從ヒテ洋製ヲ用フルモ難ナシ右ノ服帽子トモ朝服ニノ三

用ヒテハ自然ニ疎ク成行キテ宜シカラス宴居ノ外ハ必平常ニ用フルトスヘキナリ

一服色ヲ古ニ復シテ上下貴賤ヲ別ツ事
服色ノ一隋唐ノ制ニ倣ヒテ紫緋綠碧ノ四等ヲ分チテ八等トセシハ久シサレ氏中古其色濫リニ成行キタリ之レハ必古ニ復シテ其制ヲ定ムヘシ服制ハ前條ニ論セシ如ク直垂ヲ用フルナリ

一戎服ハ時勢ニ從ヒ西洋製ニ從フヘキ事
 近來槍劍ノ利少ク砲銃ノ利多キヲ以テ服
 制モ夫レニ從ヒ外國ノ服ヲ用ヒ來レル
 自然ノ勢ナリサレモ今用フル所ハ佛英蘭
 ノ差別ナク混用スル故ニ見惡キト云ン方
 ナシ因テ何レノ國ナリモ一國ノ制度ニ從
 ヒ武官ノ服ヲ定メラルヘシ官位等級ノ制
 モ夫レニ倣ステ可ナリ武官ノ外ハ前條ノ
 如シ之レモ戰ニ臨マハ武官ノ如クナルヘ

一頭髮ハ一定ノ制ヲ定ムルニ及ハサルヘキ事
 前條ニイ、シ如ク帽子ヲ制シテ平常ト雖
 モ頭ヲ露ストナケレハ髮ハイカニスモ心
 ノ儘ニスヘシ近頃散髮ト名ケシモノ或ハ
 結ヒテ後ノ方ヘ下ケシモノ其外様々ナル
 類アレモ別ニ禁ヲ施スニ及ハス唯宴居ノ
 外ハ必帽ヲ用フヘキ由號令アルヘシ

一 貴賤ノ別ヲ輕クスル事
一 貴賤ノ別ヲ輕クスル事
一 貴賤ノ別ヲ輕クスル事
一 貴賤ノ別ヲ輕クスル事
一 貴賤ノ別ヲ輕クスル事
一 貴賤ノ別ヲ輕クスル事
一 貴賤ノ別ヲ輕クスル事
一 貴賤ノ別ヲ輕クスル事
一 貴賤ノ別ヲ輕クスル事
一 貴賤ノ別ヲ輕クスル事

貴賤ノ別ヲ輕クスル事

常陸國羽生村 生島更作

士農工商各權アリテ國ニ仕フ均ク人ナリ只其
職ニ因テ令スルアリ受クルアリ之レ貴賤ノ別
ル、所ナリサレモ方今ノ如ク格外別ヲ立ルハ
教化ニ於テ甚害アリ殊ニ海外諸國ニ交ルニ值
リテ此ノ如キ弊アル時ハ外國人モ從テ之レ
輕視シ交際上ニ最害アリ早ク從來ノ習弊ヲ一
變シテ外國人ヲシテ我下民ヲ侮ラシムルヲ勿

